実務経験のある教員等による授業科目一覧【**看護学科**】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
解剖生理学Ⅰ	1	中村　拓磨		
解剖生理学Ⅲ	1	中村　拓磨		
疾病と治療Ⅰ	1	宇田津　明彦		
疾病と治療Ⅱ	1	宇田津　明彦		
疾病と治療Ⅲ	1	宇田津　明彦	山田　眞人	
疾病と治療Ⅳ	1	名和田　雅夫	宇田津　明彦	中村　拓磨
疾病と治療Ⅴ	1	宗前　匠	山田　眞人	
基礎看護学概論	1	村山　由起子		
共通基本技術Ⅰ	1	鈴木　幸枝	杉山　恵子	
共通基本技術Ⅱ	1	杉山　恵子	小山　京子	
日常生活援助技術Ⅰ	1	鈴木　幸枝		
日常生活援助技術Ⅱ	1	鈴木　幸枝	武森　勢津子	
フィジカルアセスメント	1	丸茂　ひろみ		
診療に伴う援助技術	1	武森　勢津子	杉山　恵子	小山　京子
臨床看護総論	1	赤毛　智美	丸茂　ひろみ	杉山　恵子
看護過程	1	丸茂　ひろみ	杉山　恵子	鈴木　幸枝
		武森　勢津子	佐野　彰子	
看護研究	1	石井　知亜子		
基礎看護学実習Ⅰ	1	丸茂　ひろみ		
基礎看護学実習Ⅱ	2	丸茂　ひろみ		
成人看護学概論	1	佐野　彰子		
成人看護学方法論Ⅰ	1	佐野　彰子		
成人看護学方法論Ⅱ	1	村山　由起子	山田　眞人	
成人看護学方法論Ⅲ	1	五百部　恵子		
成人看護学方法論Ⅳ	1	五百部　恵子		
成人看護学演習	1	村山　由起子		
老年看護学概論	1	伊藤　元子		
老年看護学方法論Ⅰ	1	伊藤　元子		
老年看護学方法論Ⅱ	1	伊藤　元子		
老年看護学演習	1	伊藤　元子	杉山　恵子	
小児看護学概論	1	吉田　ゆかり	石井　知亜子	
小児看護学方法論Ⅰ	1	梶原　康巨		
小児看護学方法論Ⅱ	1	小山　京子		
小児看護学演習	1	石井　知亜子	小山　京子	
母性看護学概論	1	山本　佐知子		
母性看護学方法論Ⅰ	1	楢崎　久美子		
母性看護学方法論Ⅱ	1	楢崎　久美子		
母性看護学演習	1	楢崎　久美子	武森　勢津子	
精神看護学概論	1	焼山　和憲		
精神看護学方法論Ⅰ	1	小原　尚利	森　亮平	山内　佑允
		竹内　裕二	焼山　和憲	
精神看護学方法論Ⅱ	1	焼山　和憲		
精神看護学演習	1	入江　恵美		

実務経験のある教員等による授業科目一覧【**看護学科**】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
成人看護学実習Ⅰ	2	佐野　彰子		
成人看護学実習Ⅱ	2	佐野　彰子		
成人看護学実習Ⅲ	2	五百部　恵子		
老年看護学実習Ⅰ	2	伊藤　元子		
老年看護学実習Ⅱ	2	伊藤　元子		
小児看護学実習	2	小山　京子		
母性看護学実習	2	楢崎　久美子		
精神看護学実習	2	入江　恵美		
在宅看護概論	1	赤毛　智美		
在宅看護方法論Ⅰ	1	赤毛　智美		
在宅看護方法論Ⅱ	1	入江　恵美		
在宅看護演習	1	赤毛　智美		
看護管理	1	村山　由起子		
医療安全	1	原田　奈津子		
臨床看護の実践	1	佐野　彰子		
災害看護と国際看護	1	丸茂　ひろみ		
在宅看護論実習	2	赤毛　智美		
看護の統合実習	2	原田　奈津子		
合　　計	**70**			

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	情報科学					担当者名		三原　徹治			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	情報社会の中で多種多様な情報から，看護・医療にとって必要なデータの選択，情報収集の方法，収集した情報の処理方法，処理結果の解釈・分析および活用方法を学び，倫理観に基づいた情報管理能力を習得し，看護実践や研究に活用できる能力を養う. 【　到達目標　】 ・情報社会の一員として情報社会の背景や仕組み・技術などの基礎的事項を理解する. ・看護従事者として必要な情報処理，文書作成およびプレゼンテーション能力の基礎を習得する.
成績評価	本科目では，最終試験の代わりに，学生諸君の成果ファイルの発表＆コンテストを実施します. コンテストを含めた成績評価の比率は以下のようです. 毎回授業の課題・小テスト；50%　　コンテスト；20%　　授業への熱意；30%
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	使用しません　（プリント資料を配布します）.		
参考図書	必要に応じて紹介します.		

回数	授　業　計　画
1	授業ガイダンス コンピュータ概説；　コンピュータの歴史，PCの機能　他　【自己学習課題】　PCの5大機能とは？
2	インターネット概説；　インターネットの歴史・仕組み　他 情報科学の基礎；　アナログとデジタル，双方向性　他　【自己学習課題】　双方向性とは？
3	情報化社会；　マルチメディア，インターネットビジネス，情報セキュリティ，関連マナーと法律　他 【自己学習課題】　情報セキュリティとは？
4	情報処理手法と結果の解釈；　統計処理，SAマトリクス，CS/CEポートフォーリオ　他 【自己学習課題】　SAマトリクスとは？
5	看護・医療と情報システム；　看護に必要な情報検索とEBM 【自己学習課題】　EBMとは？
6	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(1)；　使用可能データ・演算子，代入，参照 【自己学習課題】　数式データとは？
7	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(2)；　関数の利用，ソーティング 【自己学習課題】　Excelで使える関数
8	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(3)；　度数分布【Countif関数と棒グラフ】 【自己学習課題】　Excelによるグラフ作成
9	文書作成の基礎（MS Wordの利用）；　日本語FEP，ページフォーマット，図表等挿入　他 【自己学習課題】　IMEパッドの利用
10	プレゼン資料作成の基礎（MS PowerPointの利用）；　スライド作成，アニメーション設定 【自己学習課題】　アニメーション設定
11	プレゼンテーション演習(1)；　テーマ選定，情報検索 【自己学習課題】　選定テーマの吟味
12	プレゼンテーション演習(2)；　情報検索，プレゼンテーションファイルの作成 【自己学習課題】　検索データのデータ処理
13	プレゼンテーション演習(3)；　プレゼンテーションファイルの作成 【自己学習課題】　プレゼンファイルの補完
14	プレゼンテーション演習(4)；　プレゼンテーション準備 【自己学習課題】　プレゼン原稿の補完
15	【 授業まとめに代えて 】プレゼンテーションコンテスト(1) 【自己学習課題】　他の人の良い所を盗む
16	

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	統計学					担当者名		杉野　元亮			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	★医療情報を活用するための基礎として統計処理の基礎知識、データ処理の実際を学び、その見方、考え方を身に着けることを目的としています。（統計理論） ★この講義では統計データの適切な見方、記述の仕方、それに統計の使い方の基本知識をわかりやすく説明します。統計というと数学を連想して嫌う人が多いが、統計の見方を会得しないでは、自然現象や社会現象の動きを正しく理解し、ことに処して正しい判断を下すことはでません。情報化社会の今日、統計的方法は様々な分野で利用されていますが、正しく適用するためには、その基本的な考え方の理解が最も重要です。身近なデータによる統計分析を通して統計学のセンスを体得してほしいと思います。 **【到達目標】**①統計的手法の知識が習得できる。専門分野のレポート作成に活用できる。　②統計的技法を使い的確な考察（判断）ができる。③実践力を高めることができる。④数値に基づいた的確な表現ができる。⑤論理的なものの見方・考え方ができる。
成績評価	★講義中の課題（確認テスト）、定期試験、課題・宿題、授業の状況・受講態度などによって評価します。 **★《履修上の留意点》** ①基本的にプリントの順番に講義を進めていきますので事前に目をとおしておいて下さい。 ②分析方法を例題を用いて解説を行いますので電卓を用意しておいて下さい。 ③授業時間後の重要箇所の理解度を確認するため、復習を行うことと，疑問点は質問し，早期に解決を図るようにして下さい。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	プリント配布		
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	①受講にあたっての諸注意、②評価の方法、③授業のねらい、④授業の進め方、⑤統計学とはどんな学問であるか、⑥数を見て考える
2	統計的なものの見方・考え方、論理的なものの見方・考え方
3	人間の行動と統計的意思決定、①データと情報の違い、②データの種類、③知識とは、④尺度、⑤看護データ、保健統計、公的統計、疾病分類、生命表、
4	データのまとめ方①単純集計、②クロス集計、③度数分布、度数分布の形、度数分布の特徴、④グラフ表現
5	基本統計量；母集団の特性、（１）中心的傾向の特性：代表値（単純算術平均、メジアン、モード）、（２）散らばりの特性、：散布度（レンジ、四分位偏差、分散、標準偏差）、正規分布
6	①散布度（レンジ、平均偏差、分散、標準偏差）、②標準化変量、③平均値と標準偏差の組み合わせで何がわかるのか→正規分布、変動係数、標準化変量、偏差値、相関表
7	多変数データのまとめ方ー「関係分析:相関分析と回帰分析」→（相関分析）→①相関表、②散布図（相関図）、③正相関、負相関、④点相関図における方向と集中、⑤相関係数の求め方、共分散⑥曲線で描かれる散布図
8	①相関係数の意味、②曲線で描かれる散布図の意味、③相関関係と因果関係は違う、④疑似相関、小テスト
9	回帰分析、回帰直線、切片と傾き、最小二乗法、正規方程式
10	回帰分析（簡便法）、回帰係数の求め方と意味、決定係数の意味
11	確率とは、確率変数、確率分布、正規分布、ｔ分布
12	推定①母平均の区間推定
13	推定②母比率の区間推定③点推定
14	仮説検定①帰無仮説と対立仮説②第1種の過誤・第2種の過誤、χ二乗検定、有意水準、自由度

15	仮説検定①平均の検定②母比率の検定③χ二乗検定（適合度の検定・独立性の検定）④シンプソンのパラドックス
	まとめのテスト、解答、解説

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	論理的思考					担当者名	島田　裕子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	物事に対する考えや状況判断等のすべての行動の根本は、論理的判断が基礎である。これを理解し、看護を展開するうえで不可欠な論理的思考を学習し、理性と伝達能力を身につける。
成績評価	終講試験。　　但し、授業に臨む姿勢一出席。課題提出及び得点等も成績に加味することもある。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	『入門！論理学』中公新書	矢野茂樹	中央公論社
参考図書	『ロンリのちから』	矢野茂樹	三笠書房

回数	授　業　計　画
1	思考法の代表的な手法の紹介＝演繹法と帰納法について。
2	推測と推論の違い
3	推測と推論の違い一練習問題を解く。
4	演繹的推論の論証の手順と評価
5	演繹的推論の問題を解く　１
6	演繹的推論の問題を解く　２
7	正確な情報の探し方
8	論理学の否定
9	様々な論理的思考法　　ゼンメルワイスの仮説形成（仮説一検証一証明　）
10	類比法・合意形成他
11	事実と意見の区別
12	読む力・書く力をつける１　～学術論文や論説文を読み解く練習
13	読む力・書く力をつける２　～　論説文の要旨を捉える練習
14	詠む力・書く力をつける３　～根拠を示して意見を述べる練習
15	資料分析について　　～データ—を読み解く　まとめ
16	終講試験

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	心理学					担当者名	中山　浩行			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	人の心を理解する方法の1つとして心理学がある。その心理学の中でも、自分自身に対する理解を深め、その理解を看護場面で活かせるよう、医療と関わりの深い臨床心理学の理論や技術を取り上げる。また、国試に出題されそうな心理学の理論等についても触れたい。。
成績評価	終講試験により評価
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	看護学生の為の心理学	長田久雄編集	医学書院
参考図書	面白いほどよくわかる　心理学	渋谷昌三	アスペクト

回数	授　業　計　画
1	心理学全般の概説と医療現場で働く臨床心理士等の医療専門職の説明
2	夢の分析（自分の見た夢の自己分析）
3	エンカウンターグループの体験
4	ストレスチェックリスト等の心理検査を通しての自己分析、医療現場における心理検査についての概説
5	交流分析によるエゴグラムの体験、エゴグラムの分析①
6	エゴグラムの分析②（交流分析の理論ー『３つの私』による分析、人生における基本的態度）
7	エゴグラムの分析③（パターン分析、幼少期の親子関係と12の禁止令）
8	臨床心理学からみた心の病（うつ病とその周辺へのカウンセリング的な関り方）
9	臨床心理学から見た心の病（統合失調症とその周辺へのカウンセリング的な関り方）
10	臨床心理学から見た心の病（人格障害とその周辺へのカウンセリング的な関り方）
11	子どもの問題（いじめ）の理解の仕方と関わり方
12	子どもの問題（虐待）の理解の仕方と関わり方
13	子どもの問題（不登校）の理解の仕方と関わり方
14	子どもの問題（発達障害）の理解の仕方と関わり方
15	臨床心理学から見た心の病（性同一性障害とその周辺へのカウンセリング的な関り方）
16	終講試験

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	倫理学					担当者名		荒木　正見			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						15					

授業概要	人が生きることのなかでの価値観について考えるとともに、すべての行動の根本に倫理的判断が基礎にあることを理解し、看護職において適切な判断ができるための基本となる知識を学ぶ。
成績評価	終了試験　60%　　授業中のレポート・質問等受講姿勢40%
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　別巻　看護倫理	著：宮坂　道夫　他	医学書院
参考図書	医療倫理　第２版	丸山マサ美編著	中央法規

回数	授　業　計　画
1	医療における倫理の意味を考える。全体的存在と個の因果的関係。危機管理における多様性の意義などの根本的問題を考える。
2	人格発達論をもとに、人権の意味、差別と偏見などの非倫理的行為の原因を考える。
3	安楽死と尊厳死、遺伝子治療などの生命倫理的諸問題について倫理的立場から考える。
4	医学的倫理の基本理解と看護師の倫理観、正義感などの歴史的意義を理解する。（ﾋﾎﾟｸﾗﾃｽの誓い、ﾅｲﾁﾝｹﾞｰﾙ、医の倫理、ｼﾞｭﾈｰﾌﾞ宣言・ﾍﾙｼﾝｷ宣言など）
5	倫理的問題事例を用いてｸﾞﾙｰﾌﾟで討議、発表しまとめる。（臓器移植、生前遺伝子検査による堕胎、ﾊﾝｾﾝ氏病、高齢者、障害者の生活と支援など）
6	社会病理としての児童および高齢者虐待、自殺者の意味、などについて理解し、自分の意見をまとめる。
7	倫理的生き方・働き方における今後の課題を考える。
8	全体のまとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	生活論					担当者名		長　和洋・静間　佳代子 杉野　元亮			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	Ⅰ人間と衣生活 Ⅱ人間と食生活 Ⅲ人間と住生活 Ⅳ家庭生活と家庭経済
成績評価	終講時　客観式試験　100%
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	プリント配布		
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	人間と衣生活/衣服の歴史的変遷と文化	長
2	人間と衣生活/ライフサイクルと衣服～「成長・発達と衣服」	長
3	人間と衣生活/ライフサイクルと衣服～「構造・形態、機能、安全性、デザイン性」	長
4	人間と住生活/住生活の変遷～内外の住環境の相違点と現在	長
5	人間と住生活/住生活の基礎知識	長
6	人間と住生活/住生活の基礎知識	長
7	人間と生活/まとめと考察	長
8	食生活の変遷　日本、諸外国	静間
9	ライフサイクルと食生活（ライフステージと栄養）	静間
10	ライフサイクルと食生活（ライフステージと栄養）	静間
11	人間にとっての食生活	静間
12	①受講にあたっての諸注意②評価の方法③授業のねらい④授業の進め方 （１）家族と家庭生活の変化 （２）働き方の変化：日本の雇用システム（日本型雇用慣行）、働き方改革関連法案、裁量労働制性	杉野
13	（３）欲求の変化①欲望と経済行為②人間の欲求段階 （４）社会・経済構造の変化（人口構造の変化）	杉野
14	（４）社会・経済構造の変化（家庭経済、生活の変容）	杉野
15	（４）社会・経済構造の変化、（社会保障給付、国民医療費の動向、国民栄養調査、介護保険法、高齢者医療制度、年金 ） （５）消費者問題①情報の非対称性　②消費者の権利③消費者の責任④健康食品⑤期限切れ食品の問題⑥食品ロス問題	杉野
	まとめのテスト	

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	人間関係論					担当者名		荒木　正見			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	コミュニケーションや人間の在り方、人格発達論などを学び、自らの心の動きを理解し、他者理解のための知識を得て、自己抑制できる能力、他者との関わり方について理解する。
成績評価	終講時　客観式試験　60%　授業中の課題・質問等受講姿勢　40%
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論	著：石川　ひろの　他	医学書院
参考図書	医療コミュニケーション	荒木正見他共著	日本医療企画

回数	授　業　計　画
1	人間関係のとらえ方の次元・場面
2	人間関係の基本的意義
3	看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方
4	人間関係の基礎としての人格発達論
5	社会的相互作用
6	社会的役割
7	援助的役割を実現するためのガイドライン
8	コミュニケーションとは何か
9	コミュニケーションの障害
10	IT機器の普及に伴う効用と問題点
11	人間関係に関する研究
12	看護ケア福祉に関する研究
13	体験学習による学習効果と基本姿勢
14	体験学習の源流と構成的な体験学習・看護教育での体験学習の課題
15	全体のまとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	家族社会学					担当者名		中里　彰			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	家族を社会学の観点から考えることができるようになること。 その目的のために多くの資料を用い、発表やディスカッション等を取り入れる。
成績評価	授業で提出するレポート、また発表に積極的参加の態度及び最終試験の結果を用いて総合的に評価する。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 別巻　家族看護学	上別府　圭子	医学書院
参考図書	家族社会学	森岡　清美	有斐閣

回数	授　業　計　画
1	イントロダクション、家族とは何か
2	カフカ「掟の門」
3	猿の社会ー集団、チンパンジー、ボノボ、etc
4	社会学ーオーギュストコント以降の発展
5	家族の概念、核家族
6	家族の類型
7	家族の発達
8	家族の役割構造
9	家族の権威構造
10	機能論、パーソンズ、マートン
11	夫婦関係・親子関係
12	老人と家族及び親族
13	ジェノグラム
14	ジェノグラム
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	人間発達論					担当者名	中山　浩行			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						15					

授業概要	人の成長過程における、各発達段階において生じる心理的な問題について、事例を通して解説する。
成績評価	終講試験により評価
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	生涯人間発達論	服部祥子	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	乳幼児期～学童期における心理的な問題が、成人中期の心理的な問題と重なった事案（43才の主婦の事案）
2	乳幼児期～思春期における心理的な問題が、青年期の心理的な問題と重なった事案（18才の少年の事案）
3	幼少期～青年期における心理的な問題が、成人成熟期の心理的な問題と重なった事案（57才の主婦の事案）
4	幼少期～思春期における心理的な問題が、成人期以降の結婚観の問題となった事案（48才の男性の事案）
5	男性の心理的自立と女性の心理的自立に関する結婚問題の事案（27才の女性事案）
6	心理的自立の問題が成人期の結婚および離婚に影響を及ぼした事案（50才の主婦の事案）
7	時代の流れにみる家族観の変遷と家族の抱える心理的な問題の関係性。少子化問題、離婚と親権の問題等
8	患者の抱える生活上の問題が患者の心理的な側面に及ぼす影響。患者からみた信頼される看護師とは？
9	終講試験

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	生涯健康スポーツ論					担当者名		得本　啓次			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		△		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。
成績評価	小テスト、授業態度を総合的に評価する
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	①生涯スポーツトレーナー教本 ②背骨コンディショニング ③世界一わかりやすいパーソナルストレッチ ④背骨コンディショニングパーソナルトレーナー教本 ⑤背骨コンディショニングインストラクター教本	①水嶋章陽、中尾繁樹、油谷信隆 ②日野秀彦 ③牧谷祐志 ④日野秀彦 ⑤日野秀彦	国際学園出版社
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス
2	合同授業（背骨コンディショニング）　【日野先生】 1/2
3	合同授業（背骨コンディショニング）　【日野先生】 2/2
4	合同授業（超音波）　【清水先生】 1/2
5	合同授業（超音波）　【清水先生】 2/2
6	合同授業（パーソナルストレッチ）　【牧谷先生】 1/2
7	合同授業（パーソナルストレッチ）　【牧谷先生】 2/2
8	合同授業（発育発達と不器用さ）　【中尾先生】 1/2
9	合同授業（発育発達と不器用さ）　【中尾先生】 2/2
10	合同授業（高齢者と子どもの運動指導）　【油谷先生】 1/2
11	合同授業（高齢者と子どもの運動指導）　【油谷先生】 2/2
12	合同授業（ダンス）　【藤本先生】 1/2
13	合同授業（ダンス）　【藤本先生】 2/2
14	合同授業（ファンクショナルトレーニング）【岩澤先生】 1/2
15	合同授業（ファンクショナルトレーニング）【岩澤先生】 2/2

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	外国語Ⅰ					担当者名		廣田　恵美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	この授業では、英語による患者への対応や情報の提供等に必要と考えられる言い回しや専門用語を、会話ベースの英文を用いて学習していきます。また、基本的な文法項目や日常会話での言い回しなども説明していきます。　各unitを１～２回の授業ペースで進めていく予定ですが、受講者の関心および学力等に応じて、適宜内容を変更する可能性があります。
成績評価	筆記試験（80%）、授業への取り組み（20%）で評価を行う予定です。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	「Speaking of Nursing」	Peter Vincent, Alan Meadows	南雲堂
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	授業の概要説明、Unit 1 Asking Basic Questions　自己紹介の言いまわし
2	Unit 2 A Patient's First Visit　初来院の患者への対応
3	Unit 2の続き　問診票の記入、Unit 3 Where's Internal Medicine?　場所と行き方の説明の仕方
4	Unit 3の続き　各診療科への案内
5	Unit 4 Admission to the Hospital　時を表す前置詞の用法
6	Unit 4の続き　病室内の設備や備品の名称
7	Unit 6 Symptoms　さまざまな症状の訴え
8	Unit 6の続き　患者の訴えへの対応
9	Unit 7 Injuries and Emergencies　身体各部の名称
10	Unit 7の続き　怪我や捻挫などに関する表現
11	Unit 8 How Are You Feeling?　患者の体調や状態を表す言いまわし
12	Unit 8の続き　内臓器官の名称
13	Unit 9 A Patient's Medical History　病歴やアレルギーの有無に関して尋ねる
14	Unit 10 Medicine　薬の服用方法について説明する
15	今学期の授業総括

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	外国語Ⅱ				担当者名	李　呉小倍					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	現代中国語の発音の理解や、平易な現代中国語文の読解や会話ができるようになる。また、異文化に関心を持つことができるようになる。
成績評価	出席率・・30%　課題提出・・10%　筆記試験60%
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	中国語を学ぼう		
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	中国語について、発音・声調特徴、拼音・翻訳の仕方
2	二つの声調の組合せ練習、単母音、早口言葉、発音練習
3	発音、早口言葉、漢詩「春暁」
4	医療関係用語、あいさつ、食文化①
5	鼻音①、そり舌音（予司）、教室用語
6	鼻音②、感冒時症状と対処法の中国語、食文化②
7	かんたんな会話
8	形容詞述語文①、動詞・数字で遊ぼう、リスニング練習
9	動詞述語文、リスニング練習、中国語の外来語①、かんたんな文章を作る①
10	家族の呼び方、形容詞述語文②、かんたんな文章を作る②
11	中国語から日本語に訳す練習、家族の呼び方
12	家族の呼び方、年月日、曜日
13	年月日、時刻、漢詩（静夜思・李白）
14	童謡、漢詩
15	まとめ、総復習、質問の時間

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	○		

授業科目名	保健体育					担当者名		得本　啓次			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		△		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						15					

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。
成績評価	小テスト、授業態度、出席（減点法）などを総合的に評価する
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋章陽、中尾繁樹、油谷信隆　監修	国際学園出版社
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	1）合同授業（生涯スポーツトレーナーとは）【水嶋理事長】,（スポーツトレーナー）【出水先生】,（目標達成）【ナカソネ先生】
2	1）ガイダンス, 2）生涯スポーツトレーナーについて, 3）0-100プロジェクトについて
3	1）e-learning「スポーツ」「運動」の必要性（7分）, ファンクショナルトレーニングとは（14分）, 正しい姿勢とプランク(24分)
	1）e-learning基礎動作の重要性(11分), 上肢の動きについて(13分), 下肢の動きについて(15分)
4	1）e-learning子ども、高齢者運動指導の基礎知識(22分), 高齢者の運動指導(23分), 児童期の運動指導(17分)
	1）e-learning医療行為と医療類似行為(11分), 禁止事項(11分)
5	合同授業（Tボール）1/4
6	合同授業（Tボール）2/4
7	合同授業（Tボール）3/4
8	合同授業（Tボール）4/4

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	解剖生理学Ⅰ					担当者名	中村　拓磨			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となるものである。医学と医療技術は急速に進化、発展しており、社会との関わりはきわめて密接になり、医療に対する期待とニーズも大きくなっている。医療専門職の教育においても十分な質を確保しつつ、高度な内容を効率的に学習することが求められている。
成績評価	テスト（筆記orマーク）・授業態度
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［１］解剖生理学	著：坂井　建雄／岡田　隆夫	医学書院
参考図書	人体の全解剖図鑑	有賀誠司 / 岩川愛一郎 / 水嶋章陽	日本文芸社

回数	授　業　計　画
1	形からみた人体（体表）
2	形からみた人体（人体の構造と区分）
3	形からみた人体（人体の部位と器官）
4	素材からみた人体（細胞の構造）
5	素材からみた人体（組織の構造）
6	機能からみた人体（器官系）
7	口、咽頭、食道の機能と構造
8	腹部消化管の構造と機能
9	膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能
10	腹膜、呼吸器の構造①
11	腹膜、呼吸器の構造②
12	血液（組成と成分）
13	血液（赤血球、白血球、血小板）
14	血液（血液型）
15	テスト対策（復習）

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	解剖生理学Ⅱ					担当者名	瀬田　祐司			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	解剖生理学Ⅱでは、運動器系と神経系総論を学ぶ。運動器系を構成する骨と筋の構造と機能について、理解を深めることを目的として、講義を行う。
成績評価	定期試験により評価する。定期試験60点以上を合格とする。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［１］解剖生理学	著：坂井　建雄／岡田　隆夫	医学書院
参考図書	人体の全解剖図鑑	有賀誠司 / 岩川愛一郎 / 水嶋章陽	日本文芸社

回数	授　業　計　画
1	骨学総論１（骨の形態と機能）
2	骨学総論２（関節の構造と分類）
3	骨学各論１（体幹の骨格）
4	骨学各論２（頭蓋骨）
5	骨学各論３（上肢の骨）
6	骨学各論４（下肢の骨）
7	筋学総論１（筋の形態）
8	筋学総論２（筋の機能）
9	筋学各論１（頭頸部の筋）
10	筋学各論２（体幹の筋）
11	筋学各論３（上肢の筋）
12	筋学各論４（下肢の筋）
13	神経総論１（神経組織の構造）
14	神経総論２（神経細胞の興奮・伝導１）
15	神経総論３（神経細胞の興奮・伝導２）

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	解剖生理学Ⅲ					担当者名	中村　拓磨			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となるものである。医学と医療技術は急速に進化、発展しており、社会との関わりはきわめて密接になり、医療に対する期待とニーズも大きくなっている。医療専門職の教育においても十分な質を確保しつつ、高度な内容を効率的に学習することが求められている。
成績評価	テスト（筆記orマーク）・授業態度
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［１］解剖生理学	著：坂井　建雄／岡田　隆夫	医学書院
参考図書	人体の全解剖図鑑	有賀誠司 / 岩川愛一郎 / 水嶋章陽	日本文芸社

回数	授　業　計　画
1	循環器系の構成（心臓の構造）
2	循環器系の構成（心臓の拍出機能）
3	循環器系の構成（心電図、末梢循環系の構造）
4	血圧の循環の調節（血圧）
5	血圧の循環の調節（血液の循環、リンパとリンパ管）
6	腎臓（構造）
7	腎臓（腎臓から分泌される生理活性物質）
8	排尿路
9	体液の調節
10	自律神経による調節①
11	自律神経による調節②
12	内分泌系による調節①
13	内分泌系による調節②
14	内分泌系による調節③
15	テスト対策（復習）

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	解剖生理学Ⅳ					担当者名	瀬田　祐司			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	解剖生理学Ⅳでは、神経系各論・感覚器系・生殖器系を学ぶ。神経系・感覚器・生殖器の構造と機能について、理解を深めることを目的として、講義を行う。
成績評価	解剖見学レポート10点と定期試験90点で評価する。合計点が60点以上を合格とする。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［１］解剖生理学	著：坂井　建雄／岡田　隆夫	医学書院
参考図書	人体の全解剖図鑑	有賀誠司 / 岩川愛一郎 / 水嶋章陽	日本文芸社

回数	授　業　計　画
1	神経系各論１（中枢神経系１）
2	神経系各論２（中枢神経系２）
3	神経系各論３（末梢神経系：脳神経）
4	神経系各論４（末梢神経系：脊髄神経）
5	神経系各論５（自律神経系）
6	感覚器系１（聴平衡感覚器・味覚器）
7	感覚器系２（視覚器・嗅覚器）
8	生殖器系１（男性生殖器系）
9	生殖器系２（女性生殖器系）
10	発生１（生殖子発生・受精）
11	発生２（人体発生・出産）
12	発生３（成長・老化）
13	皮膚（感覚・体温調節）
14	解剖見学
15	解剖見学

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	生化学	担当者名	古株　彰一郎・松原　琢磨

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	分子とその化学反応にフォーカスし、生命の最小単位である細胞レベルにおける生命現象の理解を目指します。
成績評価	筆記試験
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能②生化学	畠山鎮次	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	生化学を学ための基礎知識	松原
2	代謝の基礎と酵素・補酵素	松原
3	糖質の構造と機能	松原
4	糖質代謝	松原
5	脂質の構造と機能	松原
6	脂質代謝	松原
7	タンパク質の構造と機能	松原
8	タンパク質代謝	松原
9	ポルフィリン代謝と異物代謝	松原
10	遺伝子と核酸	松原
11	遺伝子の複製・修復・組換え	古株
12	転写	古株
13	翻訳と翻訳後修飾	古株
14	シグナル伝達	古株
15	がん	古株

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	微生物学					担当者名		有吉　渉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	微生物学では、微生物の種類と一般的性質、病原微生物による感染症とそれに対する生体の防御反応（免疫）について学ぶ。さらに感染症に対する化学療法を中心とした治療法や感染予防対策に関して学ぶ。これらの学習を通して、微生物に関する基礎知識だけでなく、臨床に応用できる実践的な知識を得ることを目的にしている。
成績評価	終講試験と平常点を踏まえて総合的に評価し、60点以上を合格とする。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進４　微生物学	南嶋洋一、吉田眞一、永淵正法、齋藤光正、大野真治	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	**微生物学総論**（P4-12）：微生物学の発展について学ぶ **感染症学総論**（P70-75, 134-141）：感染成立から発症・治癒までの経過について学ぶ
2	**細菌学総論**（P14-37, 75-85）：細菌の構造、成分と代謝、細菌感染症の機構について学ぶ
3	**病原細菌と細菌感染症 1**（P217-224, 247-270）：グラム陽性菌感染症について学ぶ
4	**病原細菌と細菌感染症 2**（P224-247）：グラム陰性菌感染症について学ぶ
5	**病原細菌と細菌感染症 3**（P270-286）：スピロヘータ感染症、マイコプラズマ感染症、リケッチア感染症、クラミジア感染症について学ぶ
6	**真菌学総論と真菌感染症**（P40-48, 85-87, 288-296）：真菌の構造、成分と代謝、真菌感染症について学ぶ **原虫学総論と原虫感染症**（P50-53, 87-88, 298-308）：原虫の構造、成分と代謝、原虫感染症について学ぶ
7	**ウイルス学総論**（P56-66. 88-94）：ウイルスの構造、成分と代謝、ウイルス感染症の機構について学ぶ
8	**病原ウイルスとウイルス感染症 1**（P310-323）：DNAウイルス感染症について学ぶ
9	**病原ウイルスとウイルス感染症 2**（P323-351）：RNAウイルス感染症について学ぶ
10	**病原ウイルスとウイルス感染症 3**（P351-361）：肝炎ウイルス感染症について学ぶ
11	**感染に対する生体防御機構 1**（P96-106）：自然免疫について学ぶ
12	**感染に対する生体防御機構 2**（P106-131）：獲得免疫および粘膜免疫について学ぶ
13	**滅菌と消毒**（P144-154）：滅菌と消毒の定義、方法について学ぶ **感染症の検査と診断**（P156-168）：感染症の検査法や診断法について学ぶ
14	**感染症の治療**（P170-196）：化学療法薬の作用機序と特徴について学ぶ
15	**感染症の現状と対策**（P198-214）：感染症の変遷や問題点、対策方法について学ぶ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	病理学					担当者名		松尾　拡			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	病理学とは生体に起こる病的な状態（病気、疾病）の本態を追求する学問であり、病気を起こす原因、それぞれの病気で生じてくる変化、その経過、そしてそれがためにたどる転帰を一本の軸とし、関連する事項をも含めて論ぜられる。総論においては病気を総論的視点から臓器の違いを超えて共通する一般的通則として把握することを主眼として講義を行い、各論においてはそれぞれの臓器・組織の特殊性を十分把握しながら、そこに起こる病変の特徴などについて理解することを主眼として講義を行う。
成績評価	中間試験および期末（終講）試験により評価する。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	病理学　疾患のなりたちと回復の促進①	大橋健一ら	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	総論：第１章　病理学で学ぶこと；　第２章　細胞・組織の障害と修復（１）
2	総論：第２章　細胞・組織の障害と修復（２）
3	総論：第３章　循環障害（１）
4	総論：第３章　循環障害（２）
5	総論：第４章　炎症と免疫、移植と再生医療（１）
6	総論：第４章　炎症と免疫、移植と再生医療（２）
7	総論：第５章　感染症
8	総論：第６章　代謝障害
9	総論：第７章　老化と死
10	総論：第８章　先天異常と遺伝子異常
11	総論：第９章　腫瘍（１）
12	総論：第９章　腫瘍（２）
13	各論：第10章 循環器系の疾患；第11章 血液・造血器系の疾患；第12章 呼吸器系の疾患
14	各論：第13章 消化器系の疾患；第14章 腎・泌尿器、生殖器系、乳腺の疾患；第15章 内分泌系の疾患
15	各論：第16章 脳・神経・筋肉系の疾患；第17章 骨・関節系の疾患；第18章 眼・耳・皮膚の疾患

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	疾病と治療Ⅰ					担当者名	宇田津　明彦			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	消化器疾患・内分泌疾患の理解。医学用語の理解
成績評価	試験ならびに授業平常点
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑤　消化器	著：南川　雅子　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑥　代謝・内分泌	著：黒江　ゆり子　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	食道疾患（食道癌、食道静脈瘤、逆流性食道炎等）
2	甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、クレチン症等）
3	胃十二指腸疾患（胃十二指腸潰瘍、急性胃粘膜病変、胃癌等）
4	副腎疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫等）
5	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）
6	副甲状腺疾患（カルシウム代謝、原発性・続発性副甲状腺機能亢進症）
7	腸疾患（イレウス、大腸癌、ダンピング症候群等）
8	糖尿病　（Ⅰ型、Ⅱ型糖尿病）
9	肝疾患１（ウイルス性肝炎）
10	肝疾患２（肝硬変、肝不全、脂肪肝等）
11	メタボリック症候群、高尿酸血症、脂質異常症等）
12	胆嚢疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎、胆嚢癌等）
13	下垂体疾患（巨人症、尿崩症、小人症等）
14	膵臓疾患（急性・慢性膵炎、膵癌）
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	疾病と治療Ⅱ					担当者名		宇田津　明彦			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	呼吸器・循環器疾患の理解。医学用語の理解
成績評価	試験及び授業平常点
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学②　呼吸器	著：浅野　浩一郎　他	
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学③　循環器	著：松田　直樹　他	
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	虚血性心疾患１（動脈硬化の病態生理）
2	虚血性心疾患２（狭心症、心筋梗塞、急性冠症候群）
3	上気道炎症性疾患（咽頭炎、喉頭炎、鼻炎、副鼻腔炎等）
4	下気道炎症性疾患（市中肺炎、院内肺炎等）
5	心不全（急性・慢性心不全等）
6	肺結核
7	心臓弁膜症（僧房弁狭窄症・閉鎖不全、大動脈弁狭窄・閉鎖不全等）
8	気管支喘息
9	先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症等）
10	COPD
11	高血圧
12	肺癌
13	１３．血管病変（閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、大動脈解離等）
14	１４．間質性肺炎
15	１５．まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	疾病と治療Ⅲ					担当者名		宇田津　明彦・山田　眞人			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	Ⅰ腎・泌尿器疾患とその治療の理解 Ⅱ女性生殖器（乳房）疾患とその治療の理解 Ⅲ眼疾患とその治療の理解 Ⅳ耳鼻咽喉疾患とその治療の理解 Ⅴ皮膚疾患とその治療の理解										
成績評価	試験及び授業平常点										
その他	実務経験あり（病院）宇田津　明彦・山田　眞人										

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑧　腎・泌尿器	著：今井　亜矢子　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑨　女性生殖器	著：末岡　浩　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑬　眼	執筆：大鹿　哲郎／平井　明美	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑭　耳鼻咽喉	執筆：小松　浩子　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑫　皮膚	執筆：渡辺　晋一　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	乳房の疾患①乳がん（1）	山田
2	乳房の疾患②乳がん（2）	山田
3	乳房の疾患③乳腺良性腫瘍、良性腫瘍性疾患、発生発育異常・炎症	山田
4	腎機能ならびにその検査	宇田津
5	急性糸球体腎炎	宇田津
6	ネフローゼ症候群	宇田津
7	慢性糸球体腎炎、IgA腎症	宇田津
8	CKD（慢性腎臓病）	宇田津
9	急性・慢性腎不全	宇田津
10	皮膚科総論	宇田津
11	皮膚科各論	宇田津
12	眼科総論	宇田津
13	眼科各論	宇田津
14	耳鼻科総論	宇田津
15	耳鼻科各論	宇田津

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	疾病と治療Ⅳ					担当者名		名和田　雅夫・宇田津　明彦 中村　拓磨			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	Ⅰ血液・造血器の疾患とその治療の理解 Ⅱアレルギー・膠原病疾患とその治療の理解 Ⅲ歯・口腔疾患とその治療の理解
成績評価	試験ならびに授業平常点
その他	実務経験あり（病院）名和田　雅夫・宇田津　明彦・中村　拓磨

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学④　血液・造血器	著：飯野　京子　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑪　アレルギー・膠原病・感染症	執筆：岩田　健太郎　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑮　歯・口腔	執筆：渋谷　絹子　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	血液の生理と造血のしくみ、検査・診断と症候・病態生理	名和田
2	疾患と治療の理解：赤血球系、白血球系の異常	名和田
3	疾患と治療の理解：造血器腫瘍	名和田
4	疾患と治療の理解：出血性疾患	名和田
5	国家試験対策、まとめ	名和田
6	免疫学総論	宇田津
7	アレルギー総論	宇田津
8	アレルギー各論（Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型アレルギー）	宇田津
9	膠原病総論	宇田津
10	リウマチ性疾患（関節リウマチ。悪性間接リウマチ等）	宇田津
11	全身性エリテマトーデス（SLE）、強皮症	宇田津
12	多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病シェーグレン症候群、ベーチェット病	宇田津
13	歯科領域における解剖学的知識	中村
14	歯科領域における臨床学的知識①	中村
15	歯科領域における臨床学的知識②	中村

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	疾病と治療Ⅴ	担当者名	宗前　匠・山田　眞人

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	Ⅰ運動器疾患とその治療の理解 Ⅱ脳・神経疾患とその治療の理解
成績評価	出席状況 筆記試験 レポート等で総合的に評価する
その他	実務経験あり（病院）宗前　匠・山田　眞人

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑦　脳・神経	著：井手　隆文　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑩　運動器	著：田中　栄　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	運動器の構造と機能	山田
2	症状とその病態生理	山田
3	診断・検査と治療・処置	山田
4	疾患の理解①外傷性の運動器疾患	山田
5	疾患の理解①内因性の運動器疾患（1）	山田
6	疾患の理解①内因性の運動器疾患（2）	山田
7	脳・神経系の構造と機能	宗前
8	症状とその病態生理①	宗前
9	症状とその病態生理②	宗前
10	検査・診断と治療・処置①	宗前
11	検査・診断と治療・処置②	宗前
12	疾患の理解①	宗前
13	疾患の理解②	宗前
14	疾患の理解③	宗前
15	疾患の理解④	宗前

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	栄養学					担当者名		静間　佳代子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						15					

授業概要	人間にとっての栄養の意義と、食の健康とのかかわりおよび食事療法について学ぶ
成績評価	筆記試験
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能③ 栄養学	小野章史、杉山みち子ほか	医学書院
参考図書	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会　編・著	日本糖尿病協会・文光堂

回数	授　業　計　画
1	第1章　人間栄養学と看護
2	第2章　栄養素の種類とはたらき
3	第3章　食物の消化と栄養素の吸収・代謝
4	第4章　エネルギー代謝
5	第5章　食事と食品
6	第6章　栄養ケア・マネジメント　第7章　栄養状態の評価・判定
7	第9章　臨床栄養
8	食品交換表について　まとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	薬理学					担当者名		山下　正義			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	薬の作用機序を知り、薬の効き方、効果、副作用などについての知識を持つ。これにより、看護師として患者に適切に対応することが出来るような力を付ける
成績評価	薬物の作用とその副作用などについて、その作用メカニズムに則して理解できているかをテストの結果によって評価する。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座：専門基礎分野 薬理学（疾病のなりたちと回復の促進❸）	吉岡充弘/菅原満/泉剛/井関健	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	薬理学を学ぶにあたって：薬理学の成り立ちや、その意義、他の学問との関わりを理解する。
2	薬理学の基礎知識：薬理学を理解するために必要な基礎知識を身につける。
3	抗感染症薬：抗生物質、抗ウイルス薬、その他の抗菌薬の作用のメカニズム他の知識を付ける。
4	抗がん薬：抗がん薬の種類毎に作用のメカニズム他の知識を付ける。
5	免疫治療薬：免疫の仕組みと、それに作用する薬物の作用のメカニズム他の知識を付ける。
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬：アレルギーと炎症の仕組みを知り、それに作用する薬の知識を付ける。
7	末梢での神経活動に作用する薬物：末梢神経系の仕組みと、それに作用する薬の知識を付ける。
8	中枢神経系に作用する薬物：中枢神経系の仕組みと、それに作用する薬の知識を付ける。
9	循環器系に作用する薬物：循環器系の仕組みと、それに作用する薬のメカニズム他の知識を付ける。
10	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物：それぞれの組織に作用する薬の知識を付ける。
11	物質代謝に作用する薬物：代謝に関与する物質とその仕組み、及びそれに作用する薬を知る。
12	皮膚科用・眼科用薬：皮膚や目の仕組みを知り、それに作用する薬の知識を付ける。
13	救急の際に使用される薬物：救急医療に用いられる医薬品の概要を知る。
14	漢方薬・消毒薬：漢方薬特有の使い方と、その特徴についての概要を知る。消毒薬の知識を付ける。
15	輸液製剤・輸血剤：輸液や輸血に関する知識を付ける。

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	治療論					担当者名		小南　浩・山田　史子 浪尾　敬一			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				
授業概要	Ⅰ臨床検査 Ⅱ放射線療法 Ⅲ麻酔法										
成績評価	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する										
その他	実務経験なし										

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　別巻　臨床検査	編集：奈良　信雄／和田　隆志	医学書院
	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論	編集：矢永　勝彦／高橋　則子	医学書院
	系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学	著：青木　学　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	臨床検査（臨床検査とその役割・看護師の役割、一般検査）	小南
2	臨床検査（血液学的検査、化学検査、免疫・血清学的検査）	小南
3	臨床検査（内分泌学的検査、微生物学的検査、病理学的検査、生体検査）	小南
4	A:麻酔法 ①麻酔とは②麻酔の種類③全身麻酔の実際④術前管理⑤術中管理⑥術後管理	山田
5	⑦全身麻酔⑴麻酔器⑵麻酔薬⑶全身麻酔で使用される薬　⑧局所麻酔(区域麻酔) B:呼吸管理①酸素療法②機械的人工換気	山田
6	C:体液管理　D:輸血療法	山田
7	序章　放射線医学の成り立ちと意義　p2-p13　第1章　画像診断と看護　p18-p39 第2章　X線診断　p26-39　第3章　CT　p48-p61　第4章　MRI　p72-p84	浪尾
8	第5章　超音波検査　p92-106　第6章　核医学検査　p120-p130 第7章　IVR・血管造影　p148-p163　第8章　放射線治療総論　p172-196	浪尾

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	公衆衛生学Ⅰ					担当者名		秋房　住郎			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				

授業概要	公衆衛生学における概論と、各論として公衆衛生の主要な概念、行政組織、統計、環境衛生、感染対策、および国際保健について学ぶ。
成績評価	終講試験100点満点で評価する。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生	神馬征峰　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	公衆衛生概論（プライマリケア、ヘルスプロモーション）
2	公衆衛生の活動対象（コミュニティアズパートナーモデル、ハイリスク・ポピュレーションアプローチ）
3	公衆衛生の仕組み
4	疫学・保健統計
5	環境と健康１（概論、地球環境と健康）
6	環境と健康２（身のまわりの環境と健康、環境行政）
7	感染症とその予防対策
8	国際保健

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	公衆衛生学Ⅱ					担当者名		日髙　勝美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								15			

授業概要	看護師教育の専門基礎分野である「健康支援と社会保障制度」の中で、公衆衛生・地域保健に関する内容について学習する。具体的には、地域保健の各論である母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、歯科保健、障害者保健・難病保健、学校保健、産業保健、健康危機管理・災害保健の概要について学習する。
成績評価	終講試験のみで評価する。100点満点中60点以上を合格とする。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生	神馬征峰　他	医学書院
参考図書	公衆衛生がみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア

回数	授　業　計　画
1	公衆衛生看護、母子保健対策の経緯、各種の母子保健活動等について学習する。
2	成人保健活動、健康づくり対策、生活習慣病対策、がん対策、健康教育等について学習する。
3	高齢化の動向、高齢者保健活動、地域包括ケアシステムの構築、高齢者保健の課題等について学習する。
4	精神保健活動、精神科医療の動向、自殺予防対策、歯科保健活動等について学習する。
5	障害・難病の定義、障害者保健・難病保健活動に関する法律、地域支援システム等について学習する。
6	学校保健とその構造、養護教諭の位置づけ、学校保健の展開等について学習する。
7	産業保健の概要、職場における健康を守る仕組み、産業保健活動の展開等について学習する。
8	健康危機管理及び災害保健について学習する。
9	終講試験

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	社会保障制度					担当者名		日髙　勝美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				

授業概要	看護師教育の専門基礎分野である「健康支援と社会保障制度」の中で、社会保障制度に関する内容について学習する。具体的には、わが国の社会保障制度の仕組み、現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向、医療保障、介護保障、所得保障及び公的扶助等の概要について学習する。
成績評価	終講試験のみで評価する。100点満点中60点以上を合格とする。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度③　社会保障・社会福祉	福田素生ほか	医学書院
参考図書	公衆衛生がみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア

回数	授　業　計　画
1	社会保障制度の概要と社会保障の内容、社会福祉の法制度等について学習する。
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向等について学習する。
3	医療保障制度の沿革と同制度の類型、わが国の医療保障制度の特徴について学習する。
4	健康保険、国民健康保険、高齢者医療制度等の概要について学習する。
5	保険診療の仕組み、公費負担医療、国民医療費等について学習する。
6	介護保障の経緯、介護保険制度の概要及び同制度の課題と展望等について学習する。
7	所得保障制度の仕組み、年金保険制度、社会手当、労働保険制度等について学習する。
8	貧困・低所得者問題と公的扶助制度、生活保護制度の仕組み、低所得者対策等について学習する。
9	終講試験

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	関係法規					担当者名	日髙　勝美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				

授業概要	看護師教育の専門基礎分野である「健康支援と社会保障制度」の中で、看護関係法令等の関係法規に関する内容について学習する。具体的には、法の概念、保健医療行政の仕組み、保健師助産師看護師法、医療法、医療関係資格法等の医事法、地域保健法、健康増進法等の保健衛生法、医薬品医療機器等法等の薬務法の概要について学習する。
成績評価	終講試験のみで評価する。100点満点中60点以上を合格とする。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度④　看護関係法令	森山幹夫	医学書院
参考図書	公衆衛生がみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア

回数	授　業　計　画
1	法の概念、衛生法の概要、保健医療行政の仕組み等について学習する。
2	保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律について学習する。
3	医療法について学習する。
4	医師法、歯科医師法、薬剤師法等の医療関係資格法について学習する。
5	上記4以外の医療関係資格法、福祉関係資格法、人の死に関する法等について学習する。
6	共通保健法の地域保健法及び健康増進法、分野別保健法の精神保健福祉法、母子保健法等について学習する。
7	上記6以外の分野別保健法、感染症に関する法、食品に関する法等について学習する。
8	医薬品医療機器等法、大麻取締法、覚せい剤取締法、毒物劇物取締法等について学習する。
9	終講試験

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	社会福祉					担当者名		大辻　梢			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								15			

授業概要	・わが国の社会福祉制度の変遷と実態、今日の社会福祉の課題について学ぶ ・社会福祉の援助方法の理解したうえで、看護師としての役割を活かした援助を方法を学ぶ ⇒上記の学習目標を達成するため、教科書を中心に、実際の事例や現場での状況、最新のデーター等を活用しながら授業を行う。
成績評価	終講試験、出席状況、レポート等で総合的に評価する
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度③　社会保障・社会福祉		医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	高齢者福祉の分野とサービスについて（現状・施策）
2	高齢者福祉の分野とサービスについて（施策・事例）
3	障害者福祉の分野とサービスについて（定義と実態・理念）
4	障害者福祉の分野とサービスについて（制度の変遷・新たな法体系の整備・関連施策）
5	児童家庭福祉の分野のサービスについて（現状・法と施策・少子化対策と子育て支援・虐待）
6	社会福祉実践と医療・看護について（定義・社会福祉援助技術について・事例）
7	社会福祉実践と医療・看護について（課題・連携について）
8	社会福祉の歴史について、まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
		○	

授業科目名	総合医療論					担当者名		樫本　直樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									15		

授業概要	現代医療についての単なる概論や入門ではなく、人の生死や「病い」に関わる医療の背景にある考え方や医療の抱える問題・課題を理解した上で、「医療とは何か」「医療と看護はどう関わるのか」などについて批判的に考える。
成績評価	授業時の提出物30%、筆記試験70%で評価する。
その他	実務経験なし

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度①　総合医療論	著：小泉　俊三　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス：健康とは何か、疾患と病いの違い
2	現代医療の歴史と背景
3	科学的医療観と人間観
4	医療者中心の医療から患者中心の医療／看護へ①
5	医療者中心の医療から患者中心の医療／看護へ②
6	患者の自己決定を支えることと全人的医療
7	医療におけるケアの視点
8	まとめ：現代医療における看護の役割

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	基礎看護学概論				担当者名	村山　由起子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割・機能とその重要性を学ぶ。看護師としての基本的責任を果たすため、看護師の在り方に対する倫理を学ぶ。
成績評価	出席状況、筆記試験、レポートなどで総合評価する
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門Ⅰ　看護学概論 基礎看護学①	茂野香おる他	医学書院
参考図書	看護覚書、看護の基本となるもの		

回数	授　業　計　画
1	Ⅰ看護の本質（１．看護の定義、２．看護の歴史）
2	Ⅰ看護に本質（３．看護理論について）
3	Ⅱ看護の役割と機能（１．看護ケア、２．看護の役割・機能の拡大）
4	Ⅲ看護の継続性と情報共有（１．入院における継続性）
5	Ⅲ看護の継続性と情報共有（２．多職種チームとのかかわり　３．在宅療養との連携と関わり）
6	Ⅳ看護における倫理（１．現代社会と倫理２．医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理）
7	Ⅳ看護における倫理（3．医療専門職の倫理規定４．看護実践における倫理問題の取り組み）
8	人間の「こころ」と「からだ」
9	人間のこころとからだ・体にかかるストレスの影響
10	生涯発達しつづける存在としての人間・人間の暮らしの理解
11	国民の健康･健康の全体像
12	ライフサイクルと健康・生活 現在の日本人の健康と生活を考える
13	看護の提供者・職業としての看護・・資格と養成にかかわる制度・看護職者の就業
14	看護の提供のしくみ・サービスとしての看護・提供の場・経済・人員配置・評価
15	国際化と看護・災害時における看護

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	共通基本技術Ⅰ					担当者名		鈴木幸枝・杉山惠子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	看護技術とは科学的知識の裏づけられた看護技術を援助技術として実践することであり、看護技術の良否が看護の質を決定する。また、看護を始めるにあたってどんな看護場面においても、まずは対象を理解することから始まり、それにはコミュニケーションが必要不可欠である。そのためここでは、看護技術の習得の必要性を理解し、援助経過における人間関係形成に必要な知識・コミュニケーション技術や自己・他者理解を深めるための技法、生命徴候を観察する基本的援助技術を習得する。
成績評価	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する
その他	実務経験あり（病院）鈴木幸枝・杉山惠子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②	茂野香おる　著者代表	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③	任和子　著者代表	医学書院
参考図書	自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード	長谷川雅美　編集	日総研

回数	授　業　計　画		
1	基礎看護技術Ⅰ 第序章	ABC看護技術を学ぶにあたって DE看護技術の根底をなすもの～適切な技術習得のために～	杉山
2	基礎看護技術Ⅰ 第1章	Aコミュニケーションの意義と目的	杉山
3	基礎看護技術Ⅰ 第1章	Bコミュニケーションの構成要素と成立過程 C関係構築のためのコミュニケーションの基本	杉山
4	基礎看護技術Ⅰ 第1章	D効果的なコミュニケーションの実際	杉山
5	基礎看護技術Ⅰ 第1章	Bプロセスレコードの書き方 Eコミニュケーション障害への対応	杉山
6	基礎看護技術Ⅰ 第1章	効果的なコミュニケーションの実際　＜演習＞	杉山
7	基礎看護技術Ⅰ 第2章	Ａヘルスアセスメントとは	鈴木
8	基礎看護技術Ⅰ 第2章	Ｂ健康歴とセルフケア能力のアセスメント	鈴木
9	基礎看護技術Ⅰ 第2章	Ｃ全体の概観 全身状態・全体印象の把握	鈴木
10	基礎看護技術Ⅰ 第2章	Ｃ全体の概観 バイタルサインの観察とアセスメント	鈴木
11	基礎看護技術Ⅰ 第2章	Ｃ全体の概観 バイタルサインの観察とアセスメント〈演習〉	鈴木
12	基礎看護技術Ⅰ 第2章	Ｃ全体の概観 バイタルサインの観察とアセスメント〈演習〉	鈴木
13	基礎看護技術Ⅰ 第2章	Ｃ全体の概観 計測〈演習〉	鈴木
14	基礎看護技術Ⅰ 第2章	技術チェック	鈴木
15	基礎看護技術Ⅰ 第2章	技術チェック	鈴木

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	共通基本技術Ⅱ					担当者名	杉山恵子・小山京子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	看護実践の原則である安全や安楽について思考し、感染予防の基礎的知識・技術を理解する。また看護における学習支援の基本技術、情報共有するために必要な記録・報告について理解し、基本的援助技術を学習していく。
成績評価	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する
その他	実務経験あり（病院）杉山恵子・小山京子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②	茂野香おる　著者代表	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	任和子　著者代表	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任和子　著者代表	医学書院
参考図書	看護学生スタートアップトレーニング	水方　智子監修	メディカ出版

回数	授　業　計　画		
1	基礎看護技術Ⅱ 第13章	A感染防止の基礎知識 B標準予防策（ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ） F感染性廃棄物の取り扱い	小山
2	基礎看護技術Ⅱ 第13章	B標準予防策（ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ）　＜演習＞	小山
3	基礎看護技術Ⅱ 第5章	A体位保持（ポジショニング）	杉山
4	基礎看護技術Ⅱ 第5章	A体位保持（ポジショニング）　＜演習＞	杉山
5	基礎看護技術Ⅱ 第5章	B罨法 C身体ケアを通じてもたらされる安楽	杉山
6	基礎看護技術Ⅱ 第5章	B罨法　＜演習＞ C身体ケアを通じてもたらされる安楽　＜演習＞	杉山
7	基礎看護技術Ⅱ 第13章	B標準予防策 C感染経路別予防策 D洗浄・消毒・滅菌 E無菌操作	小山
8	基礎看護技術Ⅱ 第13章	E無菌操作 F感染性廃棄物の取り扱い Gカテーテル関連血流感染対策 H針刺し防止策	小山
9	基礎看護技術Ⅱ 第13章	E無菌操作　＜演習＞	小山
10	基礎看護技術Ⅱ 第13章	E無菌操作　＜演習＞	小山
11	基礎看護技術Ⅱ 第14章	A安全確保の基礎知識 B誤薬防止 Cチューブ類の予定外抜去防止	小山
12	基礎看護技術Ⅱ 第14章	D患者誤認防止 E転倒・転落防止 F薬剤・放射線曝露の防止	小山

13	基礎看護技術Ⅰ 第4章	A看護における学習支援とは B健康に生きることを支える学習支援 C健康状態の変化に伴う学習支援	小山
14	基礎看護技術Ⅰ 第4章	C健康状態の変化に伴う学習支援 D学習支援の実際	小山
15	基礎看護技術Ⅰ 第3章	D看護記録	小山

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	日常生活援助技術Ⅰ					担当者名	鈴木幸枝			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						45					

授業概要	看護技術とは何か、対象に看護技術を用いる意味を考える。その上で対象のニーズについて理解を深め、安全で安楽に日常生活を送るための安楽確保の技術について学ぶ。そして技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を身につける。
成績評価	出席状況、レポート提出状況、筆記試験等で総合的に評価する
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任　和子他 任　和子他	医学書院 医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ａ】援助の基礎知識
2	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ａ】援助の基礎知識〈演習〉
3	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ｂ】援助の実際〈講義〉ベッドメイキング
4	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ｂ】援助の実際〈演習〉ベッドメイキング
5	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ｂ】援助の実際〈演習〉ベッドメイキング
6	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ｂ】援助の実際〈講義〉
7	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ｂ】援助の実際〈演習〉リネン交換
8	基礎看護技術Ⅱ 第1章　環境調整技術	【Ｂ】援助の実際〈演習〉臥床状態
9	基礎看護技術Ⅱ 第2章　食事援助技術	【Ａ】食事援助の基礎知識
10	基礎看護技術Ⅱ 第2章　食事援助技術	【Ｂ】食事摂取の介助
11	基礎看護技術Ⅱ 第2章　食事援助技術	【Ｂ】食事摂取の介助　〈演習〉
12	基礎看護技術Ⅱ 第2章　食事援助技術	【Ｃ】摂食・嚥下訓練
13	基礎看護技術Ⅱ 第2章　食事援助技術	【Ｄ】非経口的栄養摂取の援助 ①経管栄養法
14	基礎看護技術Ⅱ 第2章　食事援助技術	【Ｄ】非経口的栄養摂取の援助 ①経管栄養法　〈演習〉
15	基礎看護技術Ⅱ 第2章　食事援助技術	【Ｄ】非経口的栄養摂取の援助 ②中心静脈栄養法
16	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ａ】自然排尿および自然排便の介助 ①自然排尿および自然排便の基礎知識

17	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ａ】自然排尿および自然排便の介助 ②自然排尿および自然排便の介助の実際
18	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ａ】自然排尿および自然排便の介助　〈演習〉
19	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ａ】自然排尿および自然排便の介助　〈演習〉
20	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ｂ】導尿
21	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ｂ】導尿　〈演習〉
22	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ｃ】排便を促す援助
23	基礎看護技術Ⅱ 第3章　排泄援助技術	【Ｄ】ストーマケア　・　排泄援助技術まとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	日常生活援助技術Ⅱ					担当者名		鈴木幸枝・武森勢津子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						45					

授業概要	健康障害により日常生活が自立して行えなくなった患者にとって、看護師が提供する日常生活の援助は人間らしい生を支える技術であり、看護の本領といえる。また、人が健康な生活を維持していくためには、活動と休息のバランスがとれていることが重要な要素であり、清潔行動は豊かな社会生活を営むためにだれもが日常的に行い習慣化しているものである。ここでは、活動と休息の意義や援助方法、清潔の意義と清潔援助の目的、基礎的援助技術を習得する。
成績評価	出席状況、レポート提出状況、筆記試験等で総合的に評価する
その他	実務経験あり（病院）鈴木幸枝・武森勢津子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任　和子他 任　和子他	医学書院 医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画		
1	基礎看護技術Ⅱ 第4章　活動休息援助技術	Ａ基本的活動の援助 ①基本的活動の基礎知識	鈴木
2	基礎看護技術Ⅱ 第4章　活動休息援助技術	Ａ基本的活動の援助 ②体位	鈴木
3	基礎看護技術Ⅱ 第4章　活動休息援助技術	Ａ基本的活動の援助 ③移動（体位変換・歩行）	鈴木
4	基礎看護技術Ⅱ 第4章　活動休息援助技術	Ａ基本的活動の援助 ③移動（体位変換・歩行）〈講義〉	鈴木
5	基礎看護技術Ⅱ 第4章　活動休息援助技術	Ａ基本的活動の援助 ③移動（移乗・移送）	鈴木
6	基礎看護技術Ⅱ 第4章　活動休息援助技術	Ａ基本的活動の援助 ③移動（移乗・移送）〈講義〉	鈴木
7	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ①清潔の援助の基礎知識	武森
8	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　1)入浴 2)清拭 3)整容・口腔ケア	武森
9	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　全身清拭演習	武森
10	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　全身清拭演習	武森
11	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　全身清拭演習	武森
12	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　全身清拭演習	武森
13	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　3)洗髪 4)手浴 5)足浴 6)陰部洗浄	武森
14	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　手浴・足浴・陰部洗浄演習	武森
15	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　手浴・足浴・陰部洗浄演習	武森
16	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　手浴・足浴・陰部洗浄演習	武森

17	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　　洗髪演習	武森
18	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　　洗髪演習	武森
19	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ａ清潔の援助 ②清潔の援助の実際　　洗髪演習	武森
20	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ｂ 病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識	武森
21	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ｂ 病床での衣生活の援助 ②援助の実際　病衣・寝衣の交換演習　口腔ケア演習	武森
22	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	Ｂ 病床での衣生活の援助 ②援助の実際 可動制限がある対象の寝衣交換演習 口腔ケア演習	武森
23	基礎看護技術Ⅱ 第6章　清潔・衣生活援助技術	第6章　清潔・衣生活援助技術　まとめ	武森

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	フィジカルアセスメント	担当者名	丸茂　ひろみ

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解する。また、それらをふまえて、主に呼吸・循環の状態を判断する基礎知識と、それを整えるための効果的な援助方法について学ぶ。
成績評価	出席状況・授業態度・レポート・終講試験などにより総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②	茂野　香おる　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	任　和子　他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	編集　　任　和子　他	医学書院
参考図書	フィジカルアセスメントガイドブック　第２版	山内　豊明	医学書院
	はじめてのフィジカルアセスメント　第２版	横山　美樹	メヂカルフレンド社

回数	授　業　計　画
1	Ⅰ．ヘルスアセスメントとは
2	Ⅱ．全体の概観 １）フィジカルアセスメントに必要な技術
3	Ⅲ．系統的フィジカルアセスメント １）ケアにつなげるフィジカルアセスメント ２）呼吸器系のフィジカルアセスメント
4	３）循環器系のフィジカルアセスメント
5	４）乳房・腋窩のフィジカルアセスメント ５）腹部のフィジカルアセスメント
6	６）筋・骨格筋のフィジカルアセスメント ７）神経系のフィジカルアセスメント
7	８）頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント
8	Ⅳ．心理・社会的状態のアセスメント
9	Ⅴ．フィジカルイグザミネーションの実際 １）演習　①
10	２）演習　②
11	３）演習　③
12	Ⅵ．呼吸・循環を整える技術 １）酸素吸入療法（酸素療法） ２）排痰ケア
13	３）持続吸引（胸腔ドレナージ） ４）吸入
14	５）人工呼吸療法 ６）体温管理の技術

15	７）末梢循環促進ケア Ⅶ．まとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	診療に伴う援助技術					担当者名		武森勢津子・杉山恵子・小山京子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								45			

授業概要	看護の対象がより安全で安楽な療養生活のもとに回復過程を促進出来るように、診療の補助業務の視点から、診療を受ける対象への看護援助の基本となる知識・援助方法を学習していく。
成績評価	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する
その他	実務経験あり（病院）杉山恵子・武森勢津子・小山京子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	任和子　著者代表	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④	茂野香おる　著者代表	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任和子　著者代表	医学書院
参考図書	看護学生スタートアップトレーニング	水方智子　監修	メディカ出版

回数	授　業　計　画		
1	基礎看護技術Ⅱ 第8章	創傷管理技術 A創傷管理の基礎知識	武森
2	基礎看護技術Ⅱ 第8章	創傷管理技術 B創傷処置	武森
3	基礎看護技術Ⅱ 第8章	創傷管理技術 C褥瘡予防	武森
4	基礎看護技術Ⅱ 第9章	与薬の技術 A与薬の基礎知識 B経口投与・口腔内与薬	杉山
5	基礎看護技術Ⅱ 第9章	C吸入 D点眼 E点鼻 F経皮的与薬 G直腸内投与	杉山
6	基礎看護技術Ⅱ 第9章	H注射（注射の基礎知識）	杉山
7	基礎看護技術Ⅱ 第9章	H注射（皮下注射）（皮内注射）（筋肉内注射）（静脈内注射）	杉山
8	基礎看護技術Ⅱ 第9章	H注射（静脈内注射）（輸血管理）	杉山
9	基礎看護技術Ⅱ 第9章	H注射準備＜演習＞	杉山
10	基礎看護技術Ⅱ 第9章	H静脈血採血＜演習＞	杉山
11	基礎看護技術Ⅱ 第9章	H皮下注射＜演習＞	杉山
12	基礎看護技術Ⅱ 第9章	H筋肉内注射＜演習＞	杉山
13	基礎看護技術Ⅱ 第11章	Ａ症状・生体機能管理技術の基礎知識 Ｂ検体検査	小山

14	基礎看護技術Ⅱ 第11章	Ｂ検体検査 Ｃ生体情報のモニタリング	小山
15	基礎看護技術Ⅱ 第12章	Ａ診察の介助 Ｂ検査・処置の介助 ①Ｘ線撮影　②コンピュータ断層撮影（ＣＴ） ③磁気共鳴画像（ＭＲＩ）	小山
16	基礎看護技術Ⅱ 第12章	Ｂ検査・処置の介助 ④内視鏡検査　⑤超音波検査 ⑥肺機能検査（スパイロメトリー）⑦核医学検査	小山
17	基礎看護技術Ⅱ 第12章	Ｂ検査・処置の介助 ⑧穿刺 胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺	小山
18	基礎看護技術Ⅱ 第12章	Ｂ検査・処置の介助 ⑧穿刺 腰椎穿刺、骨髄穿刺	小山
19	臨床看護総論 第4章	Ａ輸液療法を受ける対象者への看護 Ｇ身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護	小山
20	臨床看護総論 第4章	Ｂ化学療法を受ける対象者への看護 Ｃ放射線療法を受ける対象者への看護	小山
21	臨床看護総論 第4章	Ｄ手術療法を受ける対象者への看護 Ｅ集中治療を受ける対象者への看護 Ｆ創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護	小山
22	臨床看護総論 付章	医療機器の原理と実際 Ａ医療機器を安全に使うために Ｂ測定用医療機器の原理と実際 Ｃ治療用医療機器の原理と実際 Ｄ医療機器使用時の看護	小山
23	臨床看護総論 付章	医療機器の原理と実際　＜演習＞	小山

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	臨床看護総論					担当者名		赤毛智美・丸茂ひろみ 杉山恵子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	ライフサイクルから対象をとらえ、経過に応じた症状における看護を理解する。
成績評価	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する
その他	実務経験あり（病院）赤毛智美・丸茂ひろみ・杉山恵子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護学総論 基礎看護学④	香春　知永	医学書院
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③	任　　和子	医学書院
参考図書	系統看護学講座　専門基礎　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②	田中　越郎	医学書院

回数	授　業　計　画
1	Ⅰ　ライフサイクル、家族の機能、生活と療養上の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズを理解する
2	Ⅱ　急性期、慢性期における看護を理解する
3	Ⅱ　リハビリテーション期、終末期における看護を理解する
4	Ⅲ　呼吸に関連する症状における看護を理解する
5	Ⅲ　循環に関連する症状における看護を理解する
6	Ⅲ　栄養、代謝、排泄に関連する症状における看護を理解する
7	Ⅲ　栄養、代謝、排泄に関連する症状における看護を理解する
8	Ⅲ　活動や休息、認知や知覚に関連する症状における看護を理解する
9	Ⅲ　コーピング、安全や生体防御機能に関連する症状における看護を理解する
10	Ⅲ　安楽に関連する症状における看護を理解する
11	Ⅳ　救命救急処置の基礎知識
12	Ⅳ　心肺蘇生法、止血法、院内急変時時の対応
13	Ⅳ　一次救命処置
14	Ⅳ　二次救命処置
15	Ⅴ　死の看取りの援助

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	看護過程					担当者名		丸茂ひろみ・杉山惠子・ 鈴木幸恵・武森勢津子・佐野彰子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	看護活動は、あらゆる健康状態の人々を対象に、一人ひとりの健康に対する考え方を尊重し、いかに自立して健康に暮らせるかという生活の質をも含めた継続的な活動である。看護活動には、看護過程の概念が用いられ、これは順序性を伴う思考・判断過程でもあり、この過程には多くの科学的な根拠や知識が必要とされる。ここでは、科学的に問題解決を行うため、看護過程の基礎を理解したうえで、事例をもとに看護過程の展開方法を習得する。
成績評価	出席状況・授業態度・終講試験などで総合的に評価する。 （個人ワークを行ったうえで演習・グループワークに参加すること。個人ワーク及びグループワークについては、講義時間外での取り組みが必要となる。）
その他	実務経験あり（病院）丸茂ひろみ・杉山惠子・鈴木幸恵・佐野彰子・武森勢津子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②	茂野　香おる　他	医学書院
	看護診断ハンドブック　第11版	リンダＪ.カルペニート	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	Ⅰ．看護過程とは １）看護過程の定義と看護過程各段階と相互関係 ２）看護過程を展開する際に基盤となる考え方
2	Ⅱ．看護過程の各段階 １）アセスメント（情報の収集と分析） （１）情報の種類と情報取集の方法 （２）ゴードンの機能的健康パターンによる情報収集と分類・整理
3	（３）問題解決過程の考え方による分析・解釈 ①分析・解釈 ②仮診断
4	（４）関連図による統合 ①関連図作成　　※関連図の位置づけ ②統合
5	◆看護過程・事例展開　ＧＷ① ◇グループ編成・担当教員紹介 ◇リーダー・サブリーダーおよび司会・書記の順番確認 ◇演習事例配布と演習展開の説明 １）演習事例の読み込み・データベースシート検討
6	◆看護過程・事例展開　演習・ＧＷ② ・アセスメント
7	◆看護過程・事例展開　演習・ＧＷ③ ・アセスメント
8	◆看護過程・事例展開　演習・ＧＷ④ ・アセスメント
9	２）看護診断（看護問題の明確化） （１）看護診断と共同問題 （２）看護診断とPES方式による表記 （３）共同問題の表記 （４）優先順位の設定と問題リスト作成
10	３）看護計画立案 （１）目標の明確化と表記方法 （２）看護診断と共同問題の看護計画の相違点
11	◆看護過程・事例展開　演習・ＧＷ⑤ ・看護診断・看護計画立案
12	◆看護過程・事例展開　演習・ＧＷ⑥ ・看護診断・看護計画立案

13	４）実施 （１）実施の流れと実施後評価 （２）実施の記録の方法（SOAP法による記録） ５）評価 （１）評価を行う時期と評価の進め方
14	◆看護過程・事例展開　演習・ＧＷ⑦ ・実施・評価　　※実習室で計画を実施する
15	看護過程　発表会 まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	看護研究				担当者名		石井　知亜子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	研究活動の意義を理解し、専門的知識・技術の創造と開発に努めることの重要性を学ぶ。 事例を通し、研究手法に準じた実践から論文を作成する。
成績評価	グループワークの参加度、出席状況および研究論文と客観式試験の総合評価
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学④　看護研究	川村 佐和子 編集	メディカ出版
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	専門職者としての研究活動
2	討議法
3	研究の種類と特徴
4	研究における倫理
5	看護研究のクリティーク
6	事例研究の進み方（１）
7	事例研究の進み方（２）
8	研究論文の構成とまとめ方
9	事例研究の実際に関するガイダンス
10	研究活動（１）
11	研究活動（２）
12	研究活動（３）
13	研究活動（４）
14	研究活動（５）
15	公表

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ					担当者名		丸茂　ひろみ			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						45					

授業概要	臨地実習は、対象に対してすでに学んだ知識・技術を用いながら理論と実践の統合を図り、看護を実践する能力を養うことを目的とした学習活動である。基礎看護学実習では、看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から理解し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。ここでは基礎看護学実習Ⅰを２つに分け、各々の実習時期に相応した実習内容を習得する。基礎看護学実習Ⅰ－１では、療養生活の実際を知るとともに、入学後間もない時期に実習することで、講義と体験を結びつけることができ、看護について追及していくことの動機付けの一要素にする。基礎看護学実習Ⅰ－２では、対象の状態を考えた日常生活の援助方法を学ぶ。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録などにより実習評価項目に沿って総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	【基礎看護学実習Ⅰ－１】 病院の機能を知り、対象の療養生活の実際を理解する。 【基礎看護学自習Ⅰ－２】 対象の療養生活を理解し、対象の状態を考えた日常生活の援助技術を学ぶ。
実習目標	【基礎看護学実習Ⅰ－１】 １．病院の構造や機能を知る。 ２．対象の療養生活を知る。 ３．看護の実際を知る。 ４．看護学生としての行動がとれる。 【基礎看護学自習Ⅰ－２】 １．対象の現在の状態が分かる。 ２．対象の状態に応じた必要な援助を考え、安全・安楽に留意して日常生活の援助ができる。 ３．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	臨地実習と学内実習を合わせて下記時間の実習を行う。 【基礎看護学実習Ⅰ－１】（15時間） １．病院・病棟のオリエンテーションを受ける。 ２．看護師とともに行動し（シャドウイング）、看護活動の実際を見学する。 ３．個々の学生の体験を、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ４．リフレクションを通して学びを共有するとともに課題を見出す。 ※具体的な実習内容・方法は実習要項参照 【基礎看護学実習Ⅰ－２】（30時間） １．対象の情報収集、分析・解釈を行う。 ２．対象の状態に応じた援助を行う。 ３．個々の学生の体験を、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ４．リフレクションを通して看護場面・看護実践を振り返り、看護の意味や価値を考え課題を見出す。 ※具体的な実習内容・方法は実習要項参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ					担当者名		丸茂　ひろみ			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								90			

授業概要	臨地実習は、対象に対してすでに学んだ知識・技術を用いながら理論と実践の統合を図り、看護を実践する能力を養うことを目的とした学習活動である。基礎看護学実習では、看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から理解し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。基礎看護学実習Ⅱでは、実際の対象に応じた看護過程を初めて展開する。看護過程の展開を行うことで理論的・科学的な看護の基盤となる考えを養い、看護過程の展開思考・方法を習得する。また、看護援助を行うためには、培った態度を基盤とし、知識・技術を用いて、対象に安全・安楽な看護技術を提供できることと、対象の状態を把握し、どのような看護が必要かを考える過程があり、これらについても学ぶ。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録などにより実習評価項目に沿って総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	看護の対象に関心を寄せ、対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開する基礎的能力を養う。
実習目標	１．対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 ２．対象の状態に応じた看護過程の展開方法を理解する。 ３．対象の状態に応じた援助技術ができる。 ４．対象と良好な人間関係を築くことができる。 ５．保健・医療・福祉の連携について知ることができる。 ６．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	臨地実習と学内実習を合わせて上記時間の実習を行う。 １．受け持ち患者の看護過程の展開を通して、対象に必要な看護を導き出す。 ２．自己の看護計画に基づいた看護を実践する。 ３．行った看護内容を評価・考察し、看護計画の修正を行う。 ４．個々の学生の体験を、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有し、 メンバーの体験を追体験する。 ※具体的な実習内容・方法は実習要項参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学概論					担当者名		佐野彰子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	ライフサイクルにおいて成人期にある人々を全人的に理解するために成人の身体的・心理的・社会的な特徴について解説する。また成人の健康問題について多様な要因と発生する諸問題について、生活環境・生活習慣等と関連づけて理解できるように解説する。
成績評価	終講試験（90%） 課題レポート,授業態度,出席状況（10%）
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①　成人看護学総論（主に使用）	著者代表　小松浩子	医学書院
	ナーシンググラフィカ　成人看護学①　成人看護学概論	安酸史子・鈴木純恵・吉田澄恵編	㈱メディカ出版
	国民衛生の動向		厚生労働統計協会
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	第1章　成人と生活
2	第2章　生活と健康　A　成人を取り巻く環境と生活からみた健康
3	第2章　生活と健康　B　生活と健康をまもりはぐくむシステム
4	第3章　成人への看護アプローチの基本
5	第4章　ヘルスプロモーションと看護
6	第5章　健康をおびやかす要因と看護
7	第6章　健康生活の急激な破綻から回復を促す看護
8	第7章　慢性病との共存を支える看護
9	第8章　障害がある人の生活とリハビリテーション
10	第9章　人生の最期のときを支える看護
11	第10章　学習者である患者への看護技術
12	第11章　治療過程にある患者への看護技術
13	第12章　症状マネジメントにおける看護技術
14	第13章　療養の場を移行する人々への看護技術/第14章　新たな治療法，先端医療と看護
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ				担当者名	佐野彰子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	慢性病を抱えた人が依存的な存在ではなく、自立した存在としてセルフマネジメントしていくための支援方法を学び、患者自身が身に付けなければならない三つの能力、「シンプトン・マネジメント」「サイン・マネジメント」「ストレス・マネジメント」を理解する。また、「患者力」をうまく引き出すために必要な「対象理解」「援助方法」「評価方法」を理解する。
成績評価	終講試験（90%） 課題レポート,授業態度,出席状況（10%）
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	ナーシング･グラフィカ　成人看護学③　セルフマネジメント	安酸史子・鈴木純恵・吉田澄恵編	㈱メディカ出版
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	1 セルフマネジメントとは／
2	2 セルフマネジメントのための対象理解／3-1 成人教育学／3-2 エンパワメントモデル／3-3 自己効力理論
3	3-4 コミュニケーション理論／4 対象理解／5 援助方法／6 評価のしかた
4	7 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援①
5	7 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援②
6	8 腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援①
7	8 腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援②
8	9 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援①
9	9 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援②
10	10 肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援①
11	10 肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援②／11 がんとともに生きるセルフマネジメント支援
12	12 慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援①
13	12 慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援②
14	13 エイズとともに生きるセルフマネジメント支援／14 難病とともに生きるセルフマネジメント支援
15	15 死が近づいた人のセルフマネジメント支援／まとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ					担当者名		山田　眞人・村山　由起子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	急性期看護の特徴と急性期に必要な理論を理解し、急性期にある対象の特徴、疾病や治療、周手術期看護について解説する。急性期にある対象とその家族に対してアセスメントに必要な看護の視点を明確にし、生命の危機的状況や日常生活と異なる状況下での看護を解説する。また、患者・家族の身体・心理・社会的健康問題を取り上げ、急性期医療に関わる医療チームの役割と連携について解説する。
成績評価	筆記試験（80%）、課題レポート及び授業貢献度（20%）
その他	実務経験あり（病院）山田眞人・村山　由起子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系看別巻1臨床外科看護総論、系統看護学講座専門2.3.5.7.10		医学書院
参考図書	系看別巻2　臨床外科看護各論		医学書院

回数	授　業　計　画	
1	周術期の基礎知識と生体の変化　①周術期に関連する基礎知識	山田
2	周術期の基礎知識と生体の変化　②外科的侵襲から回復期の生体反応	山田
3	周術期の基礎知識と生体の変化　③外科的侵襲の種類	山田
4	Ⅲ急性期看護概論１．急性期看護の特徴と課題　２．急性期の主要症状とメカニズム 3.周手術期看護の特徴と課題　4. 術前・術中・術後の看護の目標5. 手術を受ける患者・家族の特性	村山
5	Ⅳ肺切除術を受ける患者の看護　１．肺がんの特徴・検査・治療 ２．術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護	村山
6	Ⅴ消化・吸収障害のある患者の看護　１．消化器系（食道～大腸）の構造と機能 ２．腫瘍の病因・分類・治療・検査3. 術前・術後の看護・アセスメント	
7	Ⅵ胃切除術を受ける患者の看護　１．胃がんの分類・検査・治療 ２．術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント．合併症予防と看護	
8	Ⅶ食道再建術を受ける患者の看護　１．食道がんの分類・検査・治療 ２．術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護	
9	Ⅷ胸部（乳腺）の手術を受ける患者の看護　１．乳腺の疾患について ２．術前・術後の看護・アセスメント術後に起こりやすい障害と指導	
10	Ⅸ循環器の障害のある患者の看護　１．心臓の構造と機能　２．健康障害の特徴と治療の特徴　３．心臓カテーテルによる検査と治療時の看護	
11	Ⅹ経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を受ける患者の看護 1.PCIの種類、適応、禁忌　2. PCI時の看護	
12	Ⅺ心臓手術を受ける患者の看護 １．術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護	
13	Ⅻ脳神経機能障害のある患者の看護　１．脳神経系の構造と機能 ２．脳・神経疾患の特徴と治療の特徴　３．開頭手術適応の疾患と検査	
14	ⅩⅢ脳腫瘍・脳動脈瘤摘出術を受ける患者の看護　1.術前のアセスメント ２．術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護	
15	全体のまとめ及び試験への取り組みについて等	

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ				担当者名	五百部　恵子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	セルフケアが低下した成人の特徴を理解し、対象やその家族に及ぼす影響を理解する。 またセルフケアが低下した成人の特徴を踏まえ、生活の再獲得・再構築が必要な人への支援方法を学ぶ。 リハビリテーションの概念を理解し、リハビリテーションにおける看護の役割と援助方法を学ぶ。										
成績評価	出席状況、レポート提出状況、筆記試験等で総合的に評価する										
その他	実務経験あり（病院）										

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	ナーシンググラフィカ　健康危機状況/セルフケアの再獲得 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護	吉田澄恵 武田宣子	メディカ出版 医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	セルフケアの低下状態にある成人の理解①
2	セルフケアの低下状態にある成人の理解②
3	セルフケア再獲得を必要とする成人への看護①
4	セルフケア再獲得を必要とする成人への看護②
5	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際 ～生命維持レベルのセルフケアの再獲得～
6	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際 ～生活基本行動レベルのセルフケアの再獲得～
7	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際 ～家庭におけるセルフケアの再獲得～
8	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際 ～家庭生活の役割遂行に関わるセルフケアの再獲得～
9	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際 ～職業生活とセクシュアリティに関わるセルフケアの再獲得～
10	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際 ～地域生活や余暇生活に関わるセルフケアの再獲得～
11	リハビリテーション看護
12	運動器系の障害とリハビリテーション看護
13	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護
14	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護
15	感覚器系の障害とリハビリテーション看護

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ				担当者名	五百部　恵子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	患者とその家族が体験する長期にわたる治療に伴う苦痛、がんに特徴的な身体的、心理、社会的、霊的苦痛を理解し、がんとの共生を支える看護および緩和ケアを学ぶ。がん・難病をもつ成人、終末期にある成人の特徴を理解し、対象やその家族に及ぼす影響を理解したうえで、がん、難病をもつ成人がセルフケアを促進し、その人らしい健康生活を維持するための看護方法を学ぶ。また終末期にある成人の看護方法を学ぶ。
成績評価	出席状況・授業態度・レポート・終講試験などにより、総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑥　緩和ケア	編者　　宮下　光令	メディカ出版
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	Ⅰ．緩和ケア概論　①
2	Ⅰ．緩和ケア概論　②
3	Ⅱ．身体症状とその治療・看護　①
4	Ⅱ．身体症状とその治療・看護　②
5	Ⅱ．身体症状とその治療・看護　③
6	Ⅱ．身体症状とその治療・看護　④
7	Ⅲ．精神症状とその治療・看護
8	Ⅳ．社会的ケア Ⅴ．スピリチュアルケア
9	Ⅵ．意思決定とコミュニケーション
10	Ⅶ．在宅緩和ケア
11	ⅷ．臨死期のケア
12	Ⅸ．家族ケア
13	Ⅹ．緩和ケアと生命倫理
14	Ⅺ．非がん疾患の緩和ケア
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学演習				担当者名	村山　由起子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	1. 専門基礎分野の科目（解剖生理学、治療論、薬理学、栄養学、疾病と治療、病理学など）、看護過程、成人看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどで学んだ知識を統合・活用し看護過程が展開できる。 ２. 主体的な学習態度とその方法を習得することができる。
成績評価	終講試験、授業中の貢献度（グループワークの状況、出席状況等）、課題提出
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	看護診断ハンドブック最新版	リンダＪ．カルペニート	医学書院
参考図書	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針　他	マジョリー・ゴードン	照林社

回数	授　業　計　画
1	①看護過程演習全般の説明（学習目的・学習目標・役割等）　②記録用紙の使い方　③看護過程の基礎知識確認④ゴードン『11の機能的健康パターン』の説明
2	事例配布・説明：１．急性期事例一胃癌の周手術期 事例を読み込み、看護過程記録用紙１：データベース」に記載
3	①各自で仕上げた病態関連図を基にグループでその事例の病態関連図の仕上げ②各自で仕上げたデータベースを基にして、G・Wを活用して、データベースアセスメント記述
4	②各自で仕上げたデータベースを基にして、グループワークを活用して、データベースアセスメントを仕上げる
5	③フォーカスアセスメントの作成 フォーカスするパターンを決定し、アセスメントについてGWを行う。
6	③フォーカスアセスメントの作成 フォーカスするパターンを決定し、アセスメントについてGWを行う。
7	④全体関連図を作成し、看護診断の特定を行う。 統合についての説明、看護診断ハンドブックについて
8	⑤全体関連図を個人で仕上げる。 看護診断を個人で特定し、看護計画立案に向けての準備を行う。
9	⑤看護計画立案 看護目標の設定　O・T・E-Pの作成（根拠含む）
10	⑥実施について 事例「その後の経過」の内容を踏まえ、計画の一部を実施するための準備を行う。
11	⑥計画の実施をする
12	⑦SOAPの記述について 事例の「その後の経過」を踏まえ記述する。
13	⑦SOAPで記載し、GWで検討する。
14	⑧評価を行う。　⑨記録物の整理
15	看護過程全般についての振り返り

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	老年看護学概論				担当者名	伊藤　元子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				

授業概要	高齢者の加齢に伴う身体の変化、こころの変化やあり方について理解でき、高齢者の人間的成熟への支援、生活の質を重視した看護の視点を持ち、対象のみならず、家族、生活、制度、地域を含めた高齢者の保健・医療・福祉を統合した総合的なケアの視点を養い、高齢者の生活課題や健康障害に応じた高齢者看護の機能と役割について知識・態度を養うことを目的としている。
成績評価	筆記試験　80%。　小テスト（不定期事前に通達）出席状況・授業態度・提出物20%
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　老年看護学 系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論	北川公子　他 北川公子　他	医学書院 医学書院
参考図書	授業な中で適宜提示		

回数	授　業　計　画
1	高齢者を学ぶ入口　　「老いる」「老いを生きるということ」ということ
2	超高齢化社会の統計的輪郭
3	高齢化社会における保険医療福祉の動向
4	介護保険制度の概要・変遷・しくみ（申請の手順・サービスの内容他）
5	介護保険制度の概要・変遷・しくみ（申請の手順・サービスの内容他）
6	高齢者体験
7	高齢者体験まとめ
8	老年看護の成り立ち　老年看護の役割　老年看護における理論・概念の活用

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ					担当者名		伊藤　元子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	高齢者は加齢によって、身体的、精神的、社会的な側面に様々な変化をきたす。さらにそれらの変化は、高齢者の生活機能へ大きな影響を及ぼした結果としてＱＯＬを左右することとなる。加齢に伴う変化とそれに伴う生活機能への影響について理解し、必要な援助を考える。
成績評価	筆記試験　80%。　小テスト（不定期事前に通達）出席状況・授業態度・提出物20%
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論	北川公子　他 北川公子　他	医学書院 医学書院
参考図書	授業の中で適宜提示		

回数	授　業　計　画
1	高齢者のアセスメント ヘルスアセスメントの基本
2	高齢者のアセスメント ヘルスアセスメントの基本
3	高齢者のアセスメント　２ 身体の加齢変化とアセスメント
4	高齢者の日常機能を整える看護 基本動作と環境のアセスメント
5	高齢者の日常機能を整える看護 基本動作と環境のアセスメント
6	高齢者の日常機能を整える看護 廃用症候群のアセスメントと看護
7	高齢者の日常機能を整える看護 食事に対する看護
8	高齢者の日常機能を整える看護 排泄に対する看護
9	高齢者の日常機能を整える看護 清潔の看護
10	高齢者の日常機能を整える看護 生活リズム
11	高齢者の日常機能を整える看護 高齢者とのコミュニケーション
12	検査を受ける高齢者の看護 セクシャリティ・社会参加
13	健康逸脱からの回復を促す看護 発熱・疼痛・掻痒
14	健康逸脱からの回復を促す看護 脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感
15	健康逸脱からの回復を促す看護 褥瘡

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ					担当者名		伊藤　元子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	高齢者は疾患・症候等において、非定型的な症状を呈する。また、治療、検査そのものが、高齢者にとっては心身への負担となり、二次的な症候とつながることも珍しくない。したがって、健康を逸脱した高齢者に対する看護の知識を習得することは、高齢社会のなかにあり重要である。 また、人生の終焉に向かう高齢者への看護、高齢者の週末期を看取ることの意味とその在り方について学ぶ。
成績評価	筆記試験　80%。　小テスト（不定期）出席状況・授業態度・提出物20%
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論	北川公子　他 北川公子　他	医学書院 医学書院
参考図書	授業中に適宜提示		

回数	授　業　計　画
1	疾患を持つ高齢者への看護 脳卒中・心不全・パーキンソン症候群
2	疾患を持つ高齢者への看護 インフルエンザ・肺炎・感染性胃腸炎　他
3	疾患を持つ高齢者への看護 インフルエンザ・肺炎・感染性胃腸炎　他
4	疾患を持つ高齢者への看護 褥瘡　他
5	認知機能の障害に対する看護 うつ・せん妄・認知症　他
6	認知機能の障害に対する看護 うつ・せん妄・認知症
7	終末期における看護
8	在宅高齢者への看護
9	急性期医療・リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護
10	療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護
11	介護を必要とする高齢者を含む家族への看護
12	高齢者と医療安全
13	高齢者と救命救急 高齢者と災害看護
14	高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方
15	老年看護学実習に向けての取り組み

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	老年看護学演習				担当者名	伊藤　元子・杉山恵子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	生活者として高齢者をとらえるために必要なアセスメントの視点と疾患や障害に対するアセスメントの視点を事例を通じて学ぶ。事例に必要な看護計画を立案し、演習を通して実践・評価を行い高齢者への看護を学ぶ。
成績評価	筆記試験　80%。　小テスト（不定期事前に通達）出席状況・授業態度・提出物20%
その他	実務経験あり（病院）伊藤元子・杉山恵子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論	北川公子　他 北川公子　他	医学書院 医学書院
参考図書	授業の中で適宜提示		

回数	授　業　計　画
1	看護過程演習のガイダンス 看護過程演習1-①　大腿骨頸部骨折患者 情報の整理
2	看護過程演習1-②　大腿骨頸部骨折患者 情報の整理　アセスメント
3	看護過程演習1-③　大腿骨頸部骨折患者　アセスメント　関連図作成
4	看護過程演習1-④　大腿骨頸部骨折患者　関連図完成
5	看護過程演習1-⑤　大腿骨頸部骨折患者　アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）
6	看護過程演習1-⑥　大腿骨頸部骨折患者　アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）
7	看護過程演習１-⑦　大腿骨頸部骨折　看護計画立案
8	看護過程演習１-⑧　大腿骨頸部骨折　看護過程の展開　意見交換
9	看護過程演習２－①　グループワーク１での事例看護展開　高齢者のヘルスアセスメントの復習
10	看護過程演習２－②　グループワーク１での事例看護展開　看護計画立案（グループで）
11	看護過程演習２－③　グループワーク１での事例看護展開　看護計画立案（グループで）パンフレット作成
12	看護過程演習２－④　グループワーク１での事例看護展開　計画に沿っての援助演習①
13	看護過程演習２－⑤　グループワーク１での事例看護展開　計画に沿っての援助演習②
14	看護過程演習２－⑥　グループワーク１での事例看護展開　計画に沿っての援助演習③
15	看護過程演習２－⑦　グループワーク１での事例看護展開　各グループのまとめ（学び・気づき）、発表

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	小児看護学概論				担当者名	吉田　ゆかり・石井　知亜子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						15					

授業概要	ライフサイクルからみた小児期の心身の特徴を理解し、子どもは養育者や環境の影響を受けて発達を続ける主体的存在であること、急速な成長・発達を遂げる大切な時期であることを学ぶ。そして、小児看護への足掛かりとなる子ども観が育成できるものとする。
成績評価	課題レポート・客観式試験の総合評価
その他	実務経験あり（病院）吉田ゆかり・石井知亜子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論	執筆：奈良間　美保　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画	
1	子どもの権利の特殊性と小児医療・小児看護の特質	石井
2	子どもを取り巻く社会と環境	石井
3	子どもにとっての家族と家庭の役割、遊びについて	石井
4	新生児期・乳児期の形態的・機能的・心理社会的発達について	石井
5	幼児期の形態的・機能的・心理社会的発達について	石井
6	学童・思春期の形態的・機能的・心理社会的発達について	石井
7	小児の成長・発達	吉田
8	小児に関する法律、予防接種	吉田

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	小児看護学方法論Ⅰ					担当者名		梶原　康巨			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	小児内科（一部小児外科）疾患の病態・診断と治療を中心に、看護学生として知っておくべき疾患を概説する。特に、先天性疾患、新生児疾患や感染症については重点を置き講義する。
成績評価	終講後の試験による
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論	執筆：奈良間　美保　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	染色体異常等や胎内環境により発症する先天異常
2	同上と先天代謝異常症
3	新生児の疾患（１）
4	新生児の疾患（２）
5	新生児の疾患（３）
6	内分泌・代謝疾患
7	免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ疾患（１）
8	免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ疾患（２）
9	小児の感染症（１）
10	小児の感染症（２）
11	小児の感染症（３）
12	小児の呼吸器疾患
13	小児の循環器疾患
14	小児の消化器疾患
15	その他の重要な小児疾患

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ					担当者名		小山京子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	子どもに健康問題が生じた場合は、家族の悲しみやとまどいははかりしれず、より専門的できめの細かい支援が求められる。そのためここでは、子どもを一人の人間として捉え尊重できるよう、主な疾患・症状の看護、子供の状況（環境）や疾病の経過における子どもと家族の看護、子どもの虐待と看護について主に学習していく。
成績評価	出席状況・レポート40%・筆記試験60%
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論	執筆：奈良間　美保　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論	執筆：奈良間　美保　他	医学書院
参考図書	看護過程に沿った対症看護　第５版	高木永子　監修	学研

回数	授　業　計　画
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 Ａ病気・障害が子どもと家族に与える影響 Ｂ子どもの健康問題と看護
2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 Ａ入院中の子どもと家族の看護 Ｂ外来における子どもと家族の看護
3	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 Ｃ在宅療養中の子どもと家族の看護 Ｄ災害時の子どもと家族の看護
4	子どもにおける疾病の経過と看護 Ａ慢性期にある子どもと家族の看護 Ｄ終末期の子どもと家族の看護
5	子どもにおける疾病の経過と看護 Ｂ急性期にある子どもと家族の看護 Ｃ周手術期の子どもと家族の看護
6	症状を示す子どもの看護 ①不きげん②啼泣③痛み④呼吸困難⑤チアノーゼ
7	症状を示す子どもの看護 ⑥ショック⑦意識障害⑧けいれん⑨発熱
8	症状を示す子どもの看護 ⑩嘔吐⑪下痢⑫便秘⑬脱水⑭浮腫
9	症状を示す子どもの看護 ⑮出血⑯貧血⑰発疹⑱黄疸
10	障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護
11	主な疾患の看護 循環器疾患と看護
12	主な疾患の看護 呼吸器疾患と看護 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 感染症と看護
13	主な疾患の看護 代謝性疾患と看護 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護

14	主な疾患の看護 　染色体異常・胎内環境により発生する先天異常とその看護 　消化器疾患と看護 　悪性新生物と看護
15	主な疾患の看護 　運動器疾患と看護 　神経疾患と看護 　事故・外傷と看護

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	小児看護学演習					担当者名		石井知亜子・小山京子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	子どもは的確に訴えを表現することができにくく、親の反応や訴えも異なる。そのため、適切なアセスメントと治療・処置・検査の看護が行えるように基礎的看護技術を理解する。また、子どもに起こりやすい疾病・健康障害の事例を取り上げ、看護過程の展開方法について学習していく。
成績評価	出席状況・レポート約40%・筆記試験約60%
その他	実務経験あり（病院）石井知亜子・小山京子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論	執筆：奈良間　美保　他	医学書院
	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論	執筆：奈良間　美保　他	医学書院
	看護診断ハンドブック		医学書院
参考図書	看護過程に沿った対症看護　第５版	高木永子　監修	学研

回数	授　業　計　画	
1	コミュニケーション技術	石井
2	身体計測技術とアセスメント	石井
3	バイタルサイン測定技術とアセスメント	石井
4	プレパレーションの意義と手法	石井
5	日常生活援助技術	石井
6	活動制限と抑制技術	石井
7	検体採取・処置技術	石井
8	子どもの発達段階について振り返り 看護過程の展開方法についてガイダンス、事例配布	小山
9	看護過程の展開①　＜演習＞	小山
10	看護過程の展開②　＜演習＞	小山
11	看護過程の展開③　＜演習＞	小山
12	看護過程の展開④　＜演習＞	小山
13	看護過程の展開⑤　＜演習＞	小山
14	看護過程の展開⑥　＜演習＞	小山
15	看護過程の展開⑦　＜演習＞ まとめ	小山

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	母性看護学概論					担当者名		山本　佐知子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									15		

授業概要	母性看護の基礎となる概念や母性看護を必要とする対象の特徴および母性看護の特徴についての内容を講義やグループワーク、視覚教材等を用いながら学んでいく。 母性看護の概念および対象の特徴を理解し、母性看護の意義と役割を学び、今日的な母性に関する社会問題を倫理に関連して学ぶことができることを目標としている。
成績評価	終講試験90%、レポート課題と授業への参加状況10%
学習者へのメッセージ	母性看護の対象を取り巻く社会環境について知るために、日頃から新聞を読みニュースをみて興味を持ってください。講義内ではグループワークやDVDなどを使用して理解を深めていきます。グループワークでは活発に意見交換して楽しく学ぶことができればよいと思っています。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ 母性看護学①母性看護学概論		医学書院
参考図書	国民衛生の動向		

回数	授　業　計　画	
1	母性看護の基本となる概念	１母性とは ２セクシュアリティ ３リプロダクティブヘルス/ライツ ４母性看護における倫理
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	１母性看護の対象を取り巻く環境 （母性看護に関する組織と法律・母性保健統計からみた動向）
3		２母性看護の歴史的変遷と現状① （母性看護の変遷）
4		３母性看護の歴史的変遷と現状②　グループワーク （母子保健施策からみた現状）
5	母性看護の対象の理解	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化① （生殖器の形態・機能）
6		女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化② （妊娠と胎児の性分化）
7	女性のライフステージ各期における看護	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 ①思春期　②成熟期　③更年期　④老年期
8	リプロダクティブヘルスケア	１家族計画 ２性感染症とその予防

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ					担当者名		楢崎　久美子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期の経過と、妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、看護の方法を学ぶ。
成績評価	筆記試験１００％
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②		医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	妊娠期の身体的特徴　　①妊娠の生理②胎児の発育とその生理③母体の生理的変化
2	妊娠期の心理、社会的特徴　①妊婦の心理②妊婦と家族および社会
3	妊婦と胎児のアセスメント
4	妊婦と家族の看護
5	分娩の要素
6	分娩の経過
7	産婦、胎児、家族のアセスメント
8	分娩期の看護の実際　　①分娩１期②分娩２期③分娩3期、４期
9	産褥の経過　　①産褥期の身体的変化②産褥期の心理、社会的変化
10	褥婦のアセスメント　①産褥経過の診断②褥婦の健康状態のアセスメント
11	褥婦と家族の看護　①身体機能の回復及び進行性変化への看護②児との関係確立、育児技術にかかわる看護
12	施設退院後の看護　①育児不安と育児支援②職場復帰
13	新生児の生理
14	新生児のアセスメント　①新生児の診断②新生児の健康状態のアセスメント
15	新生児の看護　　①出生直後の看護②出生後から退院時までの看護

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ				担当者名		楢崎　久美子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	１．正常経過を逸脱した妊婦、産婦、褥婦の看護を学ぶ。 ２．女性におこりやすい生殖器の疾患とその看護を学ぶ。
成績評価	筆記試験１００％
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学② 系統看護学講座　専門Ⅱ　女性生殖器　成人看護学⑨		医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	妊娠の異常と看護
2	妊娠の異常と看護
3	分娩の異常と看護
4	分娩の異常と看護
5	産褥の異常と看護
6	産褥の異常と看護
7	新生児の異常と看護
8	新生児の異常と看護
9	精神障害合併妊婦と家族の看護
10	女性生殖器の構造と機能　　症状とその病態生理
11	診察、検査と治療・処置
12	疾患の理解と看護　　①性分化疾患
13	疾患の理解と看護　　②臓器別疾患
14	疾患の理解と看護　　③機能的疾患
15	疾患の理解と看護　　④感染症

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	母性看護学演習				担当者名		楢崎　久美子・武森　勢津子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	・母性看護技術の基礎を習得し、妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康レベルに応じた看護展開について理解する。
成績評価	レポート・小テスト２０％　　授業態度・演習２０％　　筆記試験６０％
その他	実務経験あり（病院）楢崎　久美子・武森　勢津子

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②		医学書院
	看護診断ハンドブック	リンダＪ.カルペニート	医学書院
参考図書	ウエルネス看護診断にもとづく看護過程　第３版	太田　操	医歯薬出版株式会社
	母性看護実習プレブック	本村　淳子　他	医歯薬出版株式会社

回数	授　業　計　画
1	妊娠期の看護に必要な看護技術
2	分娩期の看護に必要な看護技術
3	産褥期の看護に必要な看護技術
4	新生児期の看護に必要な看護技術
5	新生児期の看護に必要な看護技術
6	看護過程Ⅰ　～ウエルネス看護診断について～
7	看護過程Ⅱ　～正常な妊婦・産婦・褥婦の看護過程～
8	看護過程Ⅲ　～正常な妊婦・産婦・褥婦の看護過程～
9	看護過程Ⅳ　～正常な妊婦・産婦・褥婦の看護過程～
10	看護過程Ⅴ　～正常な妊婦・産婦・褥婦の看護過程～
11	看護過程Ⅵ　～正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦の看護過程～　妊娠高血圧症
12	看護過程Ⅶ　～正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦の看護過程～　妊娠糖尿病
13	看護過程Ⅷ　～正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦の看護過程～　予定帝王切開術
14	看護過程Ⅸ　～新生児の看護過程～
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	精神看護学概論				担当者名	焼山　和憲					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	精神看護学の位置づけ、精神看護学の対象および対象を取り巻く環境、現代社会の特性と問題点を理解するとともに、対象の健康保持・増進および自立的な日常生活を送るための看護の役割、精神保健福祉活動の基本的な考え方について理解する。
成績評価	１.筆記試験６０％　２.レポート２０％　３.授業中の態度２０％ １，２，３の加重平均法による評価
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎	著：武井　麻子　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	精神科看護の世界
2	精神の健康と不健康
3	ストレスと危機モデル
4	心の働き
5	心の仕組みと人格
6	２４人の人格を持つ男ビリーモルガン
7	ライフサイクルとアイデンティティ
8	フロイトの精神力動理論
9	知への旅ージーク・ムント・フロイト
10	精神症状と状態像
11	家族の中の社会病理
12	家族療法の考え方と技法
13	精神医療の歴史
14	精神障害と法制度
15	リフレクションアワー

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	精神看護学方法論Ⅰ				担当者名		小原尚利・森亮平・山内佑允・竹内裕二・焼山和憲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								15			

授業概要	精神障害の診断と原因、症状、診察と検査および治療について理解する。
成績評価	筆記試験70%、ミニッツテスト30%
その他	実務経験あり（病院）小原尚利・森亮平・山内佑允・竹内裕二・焼山和憲

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎	著：武井　麻子　他	医学書院
参考図書	初めて学ぶ　精神看護学（増補版）	焼山　和憲	花書院

回数	授　業　計　画	
1	統合失調症	小原
2	気分障害・パーソナリティ・器質性精神障害	森
3	神経症	山内
4	てんかん・心身症	竹内
5	身体絵療法　①身体面への治療　②電気ショック療法　③歴史的治療	焼山
6	精神療法	焼山
7	活動療法・リハビリテーション両方	焼山
8	治療環境・社会療法、臨床検査	焼山

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ					担当者名		焼山　和憲			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	精神障害を持つ人々や家族を援助の中心にすえ、こうした人の理解と障害を持つ人たちの回復への基礎的援助方法を習得する。
成績評価	１.筆記試験６０％　２.レポート２０％　３.授業中の態度２０％ １，２，３の加重平均法による評価
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　精神看護学②　精神看護の展開	著：武井　麻子　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	精神科看護の本質
2	患者を取り巻く人間関係
3	精神科リハビリテーション
4	入院における治療共同体
5	精神科におけるリスクマネージメント
6	治療・看護がもたら副作用
7	精神科看護におけるフィジカルアセスメント
8	統合失調症患者の回復段階に応じたケア
9	気分障害患者の回復段階に応じたケア
10	認知症患者のケア
11	自己破壊行為を呈する患者とそのケア
12	地域における精神保健と看護
13	災害時における精神的介入
14	リエゾン精神看護
15	看護師のメンタルヘルス

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	精神看護学演習	担当者名	入江　恵美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	全てのライフサイクルにおける人々の精神の健康保持・増進のための精神保健活動について理解するとともに精神障害者及び家族の特徴を総合的に理解し、人権を尊重する立場に立った看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
成績評価	出席率、授業参加態度、提出した事例３例にて評価
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎	著：武井　麻子　他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　精神看護学②　精神看護の展開	著：武井　麻子　他	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	セルフケア理論 　セルフケア理論の概要、オレム看護論
2	プロセスレコード 　プロセスレコードの基礎知識と活用
3	精神領域の看護過程に関して 　精神科の特殊性 　健康な部分に目を向けたプラン作成
4	統合失調症の紙上事例展開① 　情報の分類、問題点の抽出、事例展開
5	統合失調症の紙上事例展開② 　情報の分類、問題点の抽出、事例展開
6	統合失調症の紙上事例展開③ 　情報の分類、問題点の抽出、事例展開
7	統合失調症の紙上事例展開④ 　グループ発表
8	うつ病の紙上事例展開① 情報の分類、問題点の抽出、事例展開
9	うつ病の紙上事例展開② 情報の分類、問題点の抽出、事例展開
10	うつ病の紙上事例展開③ 情報の分類、問題点の抽出、事例展開
11	うつ病の紙上事例展開④ グループ発表
12	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開① 　情報の分類、問題点の抽出、事例展開
13	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開② 　情報の分類、問題点の抽出、事例展開
14	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開③ 　情報の分類、問題点の抽出、事例展開
15	境界性人格障害（BPD）の紙上事例展開④ 　グループ発表

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ					担当者名		佐野　彰子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									90		

授業概要	一生病気と付き合い、コントロールしながら自らの力で生活を拡大し、その人らしい生活ができるように、身体的側面や精神的側面、社会的側面から生活者として身体機能の悪化防止と回復促進、また自己管理のための教育的支援、疾病受容の支援、社会的支持の維持支援、それぞれの看護を学ぶ。そして慢性期の対象を通して、疾病受容過程への援助、自己管理への支援、症状マネジメント、日常生活の援助、家族介護者への支援、療養生活を支える社会資源の活用等を学ぶ。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	慢性期にある対象の特徴を理解し、対象がセルフコントロールしながら、その人らしく生活できるよう支援するための基礎的能力を養う。
実習目標	１．慢性期にある対象の特徴を踏まえ、対象の健康問題を統合的に理解することができる。 ２．慢性期にある対象に応じた看護過程の展開ができる。 ３．慢性期にある対象に応じてセルフコントロールのための生活指導ができる。 ４．他職種との連携に必要な知識と具体的方法を理解することができる。 ５．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 病院実習（９０時間） 学生１名に対し、受け持ち患者１名。健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 疾病をコントロールしながら生活していく対象の特徴を理解し、セルフケア能力を促進する看護の実際を学ぶ実習。個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ					担当者名		佐野　彰子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	成人看護学実習Ⅱでは、急性期にある対象への看護とし、健康状態の急激な変化により、生体がその変化に適応するために、様々な反応を起こしている生命の安全を優先する時期の看護である。そのため、入院から手術・検査・処置と急激な変化が予想される対象を受け持ち、身体侵襲を踏まえ、身体機能の回復に至るまでの援助について学ばせる。また、合併症や二次障害の予防、残存機能の維持・回復のためのリハビリテーション、セルフケア自立への援助、障害受容への支援等についても解説する。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	急性期にある対象の特徴を理解し、急激な身体侵襲の変化をきたし生命の安全を優先する急性期看護の 必要性を理解する。
実習目標	１．急性期にある対象の特徴を踏まえ、対象の健康問題を統合的に理解することが出来る。 ２．急性期にある対象に応じた看護過程の展開ができる。 ３．身体侵襲の状況にある対象の状態に合わせた援助が理解できる。 ４．日常生活に起こり得る問題を予測し、生活機能の回復と適応への援助及び継続看護について、理解できる。 ５．保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解する。 ６．看護学生として、倫理に基づいた行動ができる。 ７．手術室の構造・設備及び術中看護について理解する。
実習方法	１．実習方法 病院実習（90時間） 学生１名に対し、受け持ち患者１名。 健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 終末期・治癒困難な状態にある対象の看護の実際を学ぶ実習。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	成人看護学実習Ⅲ					担当者名		五百部　恵子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	成人期にあり、終末期・治癒困難にある対象の看護の特徴を踏まえ、対象を統合的に理解する。そのうえで、対象および家族に視点をあてた看護が実践できる基礎的能力が身につけられるよう学ぶ。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	終末期・治癒困難にある対象の特徴を理解し、症状の緩和、QOLの向上にむけた看護実践ができる基礎的能力を養う。
実習目標	１．終末期・治癒困難にある対象の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的にとらえることができる。 ２．対象に応じた看護過程が展開できる。 ３．身体的苦痛の緩和への援助が分かる。 ４．治療・処置・検査時の援助が理解できる。 ５．終末期・治癒困難にある対象の生き方を尊重した援助について考えることができる。 ６．対象や家族・医療チームと良い人間関係を築くことができる。 ７．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 病院実習（90時間） 学生１名に対し、受け持ち患者１名。 健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 終末期・治癒困難な状態にある対象の看護の実際を学ぶ実習。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ					担当者名		伊藤　元子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									90		

授業概要	実習期間中、高齢者1名を受け持ち、加齢に伴う変化と複数の疾病の病態や障害について把握し、個別的な自立支援を目指すため看護を考え実践を通じて学ぶ。高齢者が生活の中でセルフコントロールやセルフケアができるように本人とその家族へのケアをチーム医療における看護の役割について実践を通じて学ぶ。
成績評価	実習態度・実習記録・出席状況など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	１．加齢による機能低下をもつ高齢者に応じた日常生活の看護援助を学ぶ。 ２．高齢者の特徴を理解し、保健・医療・福祉システムに関する理解を深める。
実習目標	１．施設の機能と役割を理解する。 ２．対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 ３．対象に応じたQOLを考慮した日常生活の看護援助を学ぶ。 ４．対象と家族の気持ちを受け止め尊重した態度がとれる。 ５．継続看護の重要性を認識し、保健・医療・福祉の連携について理解する。 ６．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	具体的な実習内容、方法は実習要綱参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ					担当者名		伊藤　元子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	実習期間中、高齢者1名を受け持ち、加齢に伴う変化と複数の疾病の病態や障害について把握し、個別的な自立支援を目指すため看護を考え実践を通じて学ぶ。高齢者が生活の中でセルフコントロールやセルフケアができるように本人とその家族へのケアをチーム医療における看護の役割について実践を通じて学ぶ。
成績評価	実習態度・実習記録・出席状況など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	１．老年期の健康障害の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的に理解できる。 ２．老年期にある対象の健康障害とそれに伴う諸問題について理解し、対象とその家族に対する援助、看護の展開が生活の視点を考慮してできる。
実習目標	１．老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の特徴を捉え、対象を理解できる。 ２．高齢者の健康障害の複雑さ、多様性を理解し適切な看護ができる。 ３．対象の健康レベルや諸問題を考慮し、生活の視点から看護の展開ができる。 １）対象の健康レベルや発達段階、生活の視点から看護上の問題を明確化し、看護計画を立案できる。 ２）対象の個別性や残存機能を生かした援助を、看護計画に沿って安全・安楽に実施できる ３）実施した看護の展開を振り返り、評価、修正できる。 ４．老年看護に必要な保健・医療・福祉の連携について理解できる。家族援助の重要性を学ぶ。 ５．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	具体的な実習内容、方法は実習要綱参照

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	小児看護学実習					担当者名		小山　京子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	小児看護学実習では、まずは保育所実習で健康な小児との生活や遊びを通して、成長・発達の特徴を学ぶ。その上で、病院実習において小児や家族のニーズを理解した援助や成長・発達に応じた説明、家族への配慮ある対応など、継続看護も含めた健康障害を持つ小児とその家族に対する看護を理解する。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	小児期にある対象と家族を理解し、小児各期の成長・発達段階、さまざまな健康レベルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。
実習目標	１．小児各期における対象の成長・発達の特徴を理解する。 ２．健康障害のある小児とその家族に対する看護を考えることができる。 ３．健康障害のある小児の経過・症状・治療・処置を理解し、小児の特徴をふまえた基礎的看護技術が分かる。 ４．保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する。 ５．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 保育所実習（32時間） 各クラスにて指導者の指導のもと乳幼児と関わり、日常生活や遊びを通して各月齢・年齢の成長・発達を観察する 病院実習（58時間） 健康を障害された子どもとその家族を対象とした実習 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要綱参照

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	母性看護学実習					担当者名		楢崎　久美子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	種族保存の機能をもつ母性の特徴を理解し、健全なライフサイクル・マタニティーサイクルを送るための母性及び新生児の看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
成績評価	実習態度・レポート・実習記録・口頭試問で総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	種族保存の機能をもつ母性の特徴を理解し、健全なライフサイクル・マタニティーサイクルを送るための母性及び新生児の看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
実習目標	１．妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴について理解する ２．妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴と経過・症状・処置を理解し、必要な母性の看護技術が実践できる。 ３．ハイリスク及び正常経過から逸脱した妊婦、産婦、褥婦の看護や女性生殖器疾患を持つ対象の看護についてわかる。 ４．対象に応じた看護過程の展開ができる。 ５．継続看護の必要性を認識し、保険医療福祉チームにおける看護師の役割について理解する。 ６．看護師として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 病棟実習と外来実習（計９０時間） ①病棟実習 妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族を対象とした実習 受け持ち対象を中心とした実習（看護過程の展開を含む） ②外来実習 実習計画に基づいて指導者の指導のもとに行動 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要綱参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	精神看護学実習					担当者名		入江　恵美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	学生が看護師と行動を共にしながら出会う患者のさまざまな場面を通して、精神障害者の問題を知り、それに対する看護のあり方を学ぶ。看護の対象である人間を理解するための努力をすることの大切さ、心の健康、人間関係を成立・発展させるためのコミュニケーション技術、さらに治療的対人関係について学び、セルフケアへの援助技術を学ぶ。デイケア実習では精神科デイケアの役割やデイケアの利用者および家族への支援の内容などを学ぶ。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	全てのライフサイクルにおける人々の精神の健康保持・増進のための精神保健活動について理解するとともに精神障害者及び家族の特徴を総合的に理解し、人権を尊重する立場に立った看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
実習目標	１．精神障害者および家族の抱える問題の特徴について理解する。 ２．精神保健医療システムの特徴について理解し精神の保持・増進のための援助を理解する。 ３．対象にあった日常生活の援助を行い対象との治療的コミュニケーションを図ることができる。 ４．受け持ち患者の看護問題を明確化し計画・実施・評価までの看護過程が展開できる能力を養う。 ５．継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームにおける看護師の役割について理解する。 ６．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 病棟実習とデイケア実習（計９０時間） 病棟実習 受け持ち患者中心の実習（看護過程の展開） デイケア実習 実習計画に基づき指導者の指導もとに行動する。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	在宅看護概論				担当者名	赤毛　智美					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				

授業概要	在宅看護の概念を踏まえ、地域で生活しながら療養する対象と、看護師の役割を学ぶ。
成績評価	試験（７０％）レポート・受講態度（３０％）で総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	在宅療養を支えるケア	臺　有桂	メディカ出版
参考図書	国民衛生の動向	構成労働統計協会	全国官報販売協同組合

回数	授　業　計　画
1	在宅看護の概念 １）在宅看護の背景　２）在宅看護の基盤　３）地域療養を支える採択看護の役割・機能　４）在宅看護を展開するための基本理念　５）在宅看護における倫理
2	在宅療養者と家族支援 １）在宅看護の対象　２）在宅看護の対象者と在宅療養の成立条件　３）在宅療養の場における家族の捉え方　４）在宅療養者の家族への看護
3	地域包括ケアシステムにおける在宅看護 １）地域包括システム　２）療養の場の意向に伴う看護　３）地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携　４）在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント
4	地域療養を支える制度① １）社会資源の活用　２）医療保険制度　３）後期高齢者医療制度　４）介護保険制度　５）生活保護制度
5	地域療養を支える制度② ６）障害者に関連する法律　７）難病法　８）子供の在宅療養を支える制度　９）在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源　10）高齢者施策
6	在宅療養を支える訪問看護 １）訪問看護の特徴　２）在宅ケアを支える訪問看護ステーション　３）訪問看護サービスの展開　４）訪問看護記録
7	在宅看護における安全と健康危機管理 １）在宅看護における危機管理　　２）日常生活における安全管理　３）災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理
8	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	在宅看護方法論Ⅰ				担当者名		赤毛　智美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	地域で生活しながら療養する対象とその家族の発達段階・健康状態に応じたニーズと、社会資源の活用 方法を学ぶ。また在宅における看護について基本的な看護技術を理解する。
成績評価	試験（７０％）レポートおよび受講態度（３０％）で総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	在宅療養を支えるケア	臺　有桂	メディカ出版
教科書	在宅療養を支える技術	石田　千絵	メディカ出版

回数	授　業　計　画
1	生活を支える在宅看護技術　A：食事・栄養の援助、コミュニケーション
2	生活を支える在宅看護技術　B：排泄の援助
3	生活を支える在宅看護技術　C：清潔の援助
4	生活を支える在宅看護技術　D：移動の援助
5	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護　A：生活の中で必要となる安全管理
6	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護　B：リハビリテーション期にある療養者
7	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護　C：慢性期にある療養者（難病・認知症）
8	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護　D：終末期に療養者
9	脳梗塞後遺症で高次機能障害のある療養者の在宅療養の事例展開
10	パーキンソン病の療養者に対する在宅看護、糖尿病療養者に対する在宅看護の事例展開
11	誤嚥性肺炎を生じた療養者に対する在宅看護事例
12	小児の療養者、壮年期療養者に対する在宅看護の事例展開
13	COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開
14	日中独居の認知症療養者に対する在宅看護の事例展開
15	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	在宅看護方法論Ⅱ					担当者名		入江　恵美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	在宅における日常生活援助や医療的援助における基本的なアセスメントや在宅で求められる援助技術、医療管理を学び実践に生かすことができるよう学習する。
成績評価	試験（７０％）レポートおよび受講態度（３０％）で総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	在宅療養を支えるケア	臺　有桂	メディカ出版
教科書	在宅療養を支える技術	石田　千絵	メディカ出版

回数	授　業　計　画
1	在宅における医療管理を要する人の看護　医療ケアの原理原則、フィジカルアセスメント
2	在宅における医療管理を要する人の看護　A：薬物療法
3	在宅における医療管理を要する人の看護　B：酸素療法
4	在宅における医療管理を要する人の看護　C: 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法
5	在宅における医療管理を要する人の看護　C: 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、排痰ケア
6	在宅における医療管理を要する人の看護　D：膀胱留置カテーテル法、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）
7	在宅における医療管理を要する人の看護　E：胃ろう、経管栄養法
8	在宅における医療管理を要する人の看護　F：中心静脈栄養法
9	在宅における医療管理を要する人の看護　G：褥瘡管理
10	在宅における医療管理を要する人の看護　H：がん化学療法、放射線治療、外来がん治療支援
11	在宅における医療管理を要する人の看護　I：在宅CAPD管理
12	在宅における医療管理を要する人の看護　J：疼痛緩和
13	在宅における医療管理を要する人の看護　K：災害対策、虐待
14	在宅における医療管理を要する人の看護
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	在宅看護演習				担当者名		赤毛　智美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	地域で生活しながら療養する対象と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、 在宅の看護過程を展開していく際のポイントやその展開方法を理解する。
成績評価	試験（50%）　看護過程、受講態度(50%)
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	在宅療養を支える技術 在宅療養を支えるケア	臺　有桂 石田　千絵	メディカ出版
参考図書	看護診断ハンドブック	リンダJ. カルペニート	医学書院

回数	授　業　計　画
1	家庭訪問時のマナー
2	療養する対象者・家族の相談・相談面接技術
3	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
4	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
5	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
6	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
7	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
8	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
9	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
10	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
11	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
12	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
13	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
14	事例を用いた在宅看護過程の展開（2事例看護展開と在宅室での実技演習）
15	まとめ

####

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	看護管理					担当者名		村山　由起子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										15	

授業概要	看護ケアや看護サービスのマネジメント、及び看護を取り巻く諸制度など看護管理に必要な知識と技術について理解する。
成績評価	試験90%、授業貢献度10%
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　統合分野　看護管理	上泉　和子他	医学書院
参考図書	看護六法		

回数	授　業　計　画
1	第1章　看護とマネージメント　　A看護管理学とは　B看護におけるマネジメント
2	第2章　看護ケアのマネジメント　A看護ケアのマネジメントと看護職の機能　B患者の権利の尊重　C安全管理　Dチーム医療　　E看護業務の実践
3	第3章　看護職のキャリアマネジメント　第4章　看護サービスのマネジメント　A看護サービス提供のしくみづくり
4	B人材のマネジメント　C施設・設備環境・物品のマネジメント　D情報のマネジメント　Eサービスの評価
5	第5章　マネジメントに必要な知識と技術　A組織・リーダーシップとマネジメント　B組織の調整
6	第6章　看護を取り巻く諸制度　　A看護職に関連する法・制度等
7	B医療制度　　C看護政策と制度　　看護管理関連資料について
8	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	医療安全					担当者名		原田　奈津子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										15	

授業概要	看護師は多様な業務を担当し、日常的に危険に関わる職業である。国や医療現場での医療安全に対する取り組み、事故発生のメカニズムや発生防止の考えなどを学び、卒業後に臨床で働く基盤として安全な医療と確実な看護を提供するための能力を養う。
成績評価	筆記試験　70%　グループワーク・受講態度　30%
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践[2]医療安全	川村　治子	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	医療安全を学ぶことの大切さ
2	事故防止の考え方を学ぶ
3	診療の補助の事故防止（Ⅰ）患者に投与する業務における事故防止
4	診療の補助の事故防止（Ⅱ）継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止
5	療養上の世話の事故防止
6	業務領域をこえて共通する間違いと事故防止
7	組織的な安全管理体制への取り組み
8	KYT（危険予知トレーニング）について

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	臨床看護の実践				担当者名		佐野彰子　他			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	

授業概要	看護の統合実習に向けて、看護援助に必要な基礎看護学を学ぶ。また、演習では臨床で起こる出来事を題材として、対応できる能力を養う。 履修した基礎分野、専門基礎分野および専門分野の学びを臨地実習での事例検討により統合することで、看護師に求められる実践能力、卒業時の到達目標と到達度を確かなものとする。
成績評価	出席状況・課題・演習を総合的にみて評価する。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	必要に応じてプリント配布		
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	事例検討①-1
2	事例検討①-2
3	事例検討②
4	次回演習のガイダンス・事例検討③
5	演習：優先順位を考慮した看護援助
6	各領域別での学習：基礎看護学
7	各領域別での学習：基礎看護学
8	各領域別での学習：成人看護学
9	各領域別での学習：成人看護学
10	各領域別での学習：老年看護学
11	各領域別での学習：小児看護学
12	各領域別での学習：母性看護学
13	各領域別での学習：精神看護学
14	各領域別での学習：在宅看護論
15	各領域別での学習：看護の統合と実践

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	災害看護と国際看護					担当者名		丸茂　ひろみ			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	

授業概要	わが国は、地震や風水害などの自然災害が多発し、被災地の人々は命や健康をそこない、財産を奪われるなど、多くの被害を受けてきた。また近年、地球温暖化に伴う気候変化などの影響もあり、洪水や土砂災害などの災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。さらにグローバリゼーションがますます進展している現在、各国のできごとは、相互に影響を及ぼし合い、けっして１つの国のできごととしてはおさまらない状況にある。これらを踏まえ、ここでは災害看護を実践できる基礎的を身につけるとともに、国際看護における具体的な活動内容を考察できることができるよう学習する。
成績評価	出席状況・授業態度・終講試験などにより総合的に評価する。
その他	実務経験あり（病院）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	系統看護学講座　統合分野 災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践③	竹下喜久子　編集	医学書院
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	Ⅰ．災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって Ａ．看護とグローバル化した社会 Ｂ．求められる災害看護学と国際看護学
2	Ⅱ．災害看護学 Ａ．災害看護の歩み Ｂ．災害医療の基礎知識
3	Ｃ．災害看護の基礎知識
4	Ｄ．災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護
5	Ｅ．被災者特性に応じた災害看護の展開
6	Ｆ．災害とこころのケア
7	Ⅲ．地震災害看護の展開 Ａ．発生直後から出動までの看護 Ｂ．急性期の看護
8	Ｃ．亜急性期の看護 Ｄ．慢性期・復興期の看護
9	Ⅳ．国際看護学 Ａ．国際看護学とは Ｂ．グローバルヘルス
10	Ｃ．国際協力のしくみ Ｄ．文化を考慮した看護
11	Ｅ．国際看護活動の展開過程
12	Ｆ．開発協力と看護
13	Ｇ．国際救援と看護
14	Ｈ．21世紀の国際協力の課題
15	Ⅴ．災害看護学・国際看護学における教育・研究 Ａ．災害看護学・国際看護学における教育 Ｂ．災害看護学・国際看護学と研究

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	在宅看護論実習					担当者名		赤毛　智美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	地域で生活しながら療養する対象と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学ぶ
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	地域及び在宅においての看護活動を通して、地域で生活しながら療養する対象とその家族について理解を深め、そのニーズに応じた看護援助を行うための基礎的能力を養う。
実習目標	１．地域で生活するさまざまなライフステージ・健康レベルにある人々や療養する人々とその家族を総合的に理解する。 ２．地域で生活しながら療養する対象のセルフケアの能力やＱＯＬを考え、そのニーズに応じた看護援助 家族への支援方法がわかる。 ３．地域で生活しながら療養する対象を支えるために、必要な社会資源の活用と、関係職種との連携、継続的な看護の実際を学ぶ。 ４．地域で生活するためのその人らしく生きることの意義について考え、看護観を深める。 ５．看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	１．実習方法 １）訪問看護ステーション実習 地域及び在宅においての看護活動を通して、地域で生活しながら療養する 対象とその家族について学び、そのニーズに応じた看護援助を行う。 ２）地域保健活動の場における看護の実習 （区役所保健福祉課・福祉事業団・社会福祉協議会）実習 地域保健活動（区役所保健福祉課・福祉事業団・社会福祉協議会）を通して 地域における看護者の役 割を見学し体験する。 ＜学内実習＞ 地域保健活動の場における看護での見学体験を通して、知識を深めるために学びの共有を図る。 ２．実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

九州医療スポーツ専門学校

令和２年度　看護学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
			○

授業科目名	看護の統合実習					担当者名		原田　奈津子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	

授業概要	既習の知識・技術・態度を統合し、患者を統合的に捉え、一人一人の患者のニーズに合わせた看護を実践できる基礎的能力を習得する。
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価
その他	実務経験あり（病院）

実習目的	看護管理の実際を知り、看護チームの一員としての体験を通して、チーム医療の実際を理解する。また、夜勤者からの申し送りを受け、日勤帯の業務を実施していくことで、継続看護の必要性を学び、患者を統合的に捉え、一人一人の患者のニーズに合わせた看護を実践できる基礎的能力を習得する。
実習目標	１．看護管理の実際を知ることにより、保健医療チームにおける看護の役割と機能を理解する。 ２．チーム医療・他職種との連携の中で、メンバーシップやリーダーシップ及びマネジメント能力を理解する。 ３．複数の患者から、優先度の根拠や安全安楽に実践する基礎的能力を理解する。 ４．看護倫理に則って判断し、看護専門職としての責任を自覚し行動できる。 ５．専門職業人になるうえで、将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。
実習方法	１．実習方法 ①病院実習（学内実習を含む） 既習学習を統合するとともに、チーム医療・他職種との連携の中で、メンバーシップやリーダーシップ及びマネジメント能力を実習を通して学ぶ。複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して、基礎的能力を身につけ、習得する。専門職業人になるうえで、将来の看護師としての自己の課題を明確にできるように、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有し、学びを図る。 ②学内実習 学内実習では、今までの知識・技術・態度を統合し、対象の状況に応じた看護を実践する能力を習得する。看護管理・複数患者を受け持つ看護実践・他職種との協働などから、統合実習の振り返りを行い、お互いの学びを共有する。学びを共有することで、卒業後、臨床現場へスムーズに適応していく能力を身につける。 ２．実習内容 具体的な実習内容・方法は実習要綱参照